

障害児の後期中等教育への進学

障害児教育教室* 渡 部 昭 男

Entrance of the Disabled Children to Upper Secondary Schools in Japan

Akio WATANABE

学校教育法には、1947（昭和22）年の公布・施行の時点からすでに、盲・聾・養護学校に高等部を、高等学校に特殊学級（以下、75条学級）を設置しうることが明記されていた。障害児をも例外とせず後期中等教育の対象とした学校教育制度を想定していたのである。しかし、戦前から職業教育の蓄積を有した盲・聾学校においては早期に高等部教育が具体化されたものの、養護学校に関しては義務制そのものの施行が延期され、また、高等学校に関しては新制高校を整備するのに精一杯で75条学級の開設どころではなかった。その意味で、1979年度の養護学校教育の義務制施行は、単に義務教育保障だけでなく、養護学校の高等部教育の拡充など、障害児への後期中等教育の保障においても重要な意味を持っている。

本稿¹⁾では、学校基本調査の分析を通して、障害児の後期中等教育への進学状況を明らかにする。具体的には、主に文部省『学校基本調査報告書』及び文部省初等中等教育局特殊教育課『特殊教育資料』の統計データを使用した。分析の対象期間は、義務化以前の状況を把握する意味で義務化前年の1978年3月卒業者から、本稿執筆時点で公表されている1991年3月卒業者までの14年分である。

I. 全国総計の分析

1. 進学者数及び進学率

(1) 年次推移（表1）

学校基本調査における「進学者」とは、各年3月の新規卒業者（従って、いわゆる「浪人」を含まない）のうち、高等学校の本科（全日制、定時制に、1984年以降は通信制課程を含む。以下同様）及び別科、高等専門学校（1962年以降）、盲・聾・養護学校の本科及び別科に進学した者（現役進学者。就職しながら進学した「就職進学者」を含む。ただし、5月1日までに退学した者を除く）を言う。なお、専修学校、専門学校、公的職業訓練施設等への入学者は「教育訓練機関等入学者」と

* Department of Special Education, Faculty of Education, Tottori University.

キーワード：障害児、後期中等教育、進学、格差

して分類され、「進学者」には含まれない。

①中学校卒業生

中学校（75条学級を含む）卒業生の進路は、1950年3月卒業生から調査が継続されており、進学者数及び進学率の推移を知ることができる（表1）。1950年に42.5%であった進学率は、1954年には50%を、1961年には60%を、1965年には70%を、1970年には80%を、ついに1974年には90%を突破して今日に至っている。ほぼ5年に10%、毎年2%ずつの伸びを示したことになる。1980年代には高原状態となっているが、1991年の進学率は実に95.4%に達しており、量的には「準義務化」の状況にある。

②75条学級卒業生

中学校のうち、75条学級の卒業生の進学者数は、1968年から公表されている。ただし、1975年までは就職進学者を含んでいない。また、障害種別のデータはなく、国公私立の75条学級の合計値となっている。1968年当初、中学校卒業生の進学率は76.8%であったにもかかわらず、75条学級卒業生の進学率はわずかに2.9%（就職進学者を除く）にしか過ぎなかった。1991年度においても、57.6%であり、養護学校に比してさえ常に低い進学率となっている。しかし、就職進学者を加えた1976年に一気に28.5%に上昇して以降、1979年に30%を、1983年に40%を、1987年に50%を越え、養護学校義務化以降、ほぼ毎年2%ずつの顕著な伸びを示している。

③盲学校中学部卒業生

盲・聾・養護学校中学部の卒業生に関しては、1967年の統計から示されている。

盲学校に関しては、1967年から一貫して90%台であり、義務教育修了後の進学がかなり以前から一般的であったことが分かる。1976年に97.3%と最高値に達した後、養護学校義務化により一時的に91%近くへとわずかに低下している。その後、再び上昇し95%前後となっている。

④聾学校中学部卒業生

聾学校に関しては、1967年に84.5%であった進学率が、1971年に90%を突破し、養護学校義務化以降も一貫して96%以上の高率を維持している。

⑤養護学校中学部卒業生

養護学校に関しては、上昇していた進学率が養護学校義務化により下降した後に再び上昇している。すなわち、1967年に27.9%であった進学率は、1978年の68.2%まで伸び続けた後、1983年には52.2%にまで下落している。しかし、その後再び上昇し、1991年には70%を突破して過去最高の72.6%となっている。こうした量的変化だけではなく、養護学校に関しては、進学率の意味するところが義務化の前後で質的に相違しているということも踏まえる必要がある。それは、進学率に上下の変動があっても、進学者数は増加してきていることにかがえる。すなわち、中学校や盲・聾学校とは異なって、養護学校は義務化によって児童・生徒数（つまり卒業生数）自体が量的に大きく増加するとともに、質的にも重度障害児及び重複障害児を含んだ進学率へと変化してきたということである。

障害種別で見た場合（ただし、肢体不自由及び病弱養護学校に関しては公表データが不足）には、精神薄弱養護学校が、1980年の50.3%から1991年の69.7%へ、11年間で19.4%と大きく伸びたことが分かる。

なお、1983年の極端な下落は、1979年度にそれまでの不就学者を小学部の1年生ではなく6年生（1年間で小学部の課程を修了させて中学部への進学資格を付与するため）に多数措置したにもかかわらず、4年後の1983年時点の進学保障の態勢を整えなかったためである。

(2) 卒業機関別の進学率の格差 (表1)

障害児の進学率は全般的に上昇傾向にある。特に、これまで進学率の低かった養護学校(主に精神薄弱)と75条学級の卒業者において特徴的に認められる。しかし、依然として養護学校及び75条学級卒業者の進学率は低く、卒業した教育機関によって進学率が大きく異なっている状況である。

具体的には、1991年で、中学校卒業者の進学率は95.4%に対して、75条学級は57.6%、養護学校は72.6%である。養護学校に関しては、肢体不自由養護学校の83.4%に比して、病弱養護学校が71.1%、精神薄弱養護学校が69.7%とわずかに低くなっている。これに対して、同じ障害児でも、盲学校は96.4%、聾学校は98.6%と中学校卒業者の進学率よりも高くなっている。

75条学級及び養護学校に関して今後も引き続き進学率が上昇し、この格差が解消されるかどうか注目されよう。

2. 進学機関

(1) 盲・聾学校中学部卒業生 (表2)

統計上、進学機関は3つに区分される。すなわち、高等学校(本科及び別科)、高等専門学校または盲・聾・養護学校高等部(本科及び別科)である。この内、高等専門学校は後期中等教育と高等教育の両方にまたがる教育機関であるが、高等専門学校に進学する障害児は合計しても極めて少数(0人ないし1桁台)であるので、表2では高等学校と高等専門学校を併せて「高校等」として、「高等部」と2つに大別した。

盲・聾学校の中学部から高等学校等に進学する者は、1979年以降大きな変化はなく、毎年各々20人未満である。残る大多数は高等部に進学しており、例えば1991年において、盲学校の中学部を卒業した進学者の94.4%、聾学校の中学部を卒業した進学者の98.4%が高等部に進学している。

なお、中学校の通常の学級を卒業した後に高校等に進学する視覚障害児及び聴覚障害児は学校基本調査の数字には上がってこない。

(2) 養護学校中学部及び中学校75条学級卒業生 (表2)

① 養護学校

養護学校の中学部の卒業者に関しては、高校等への進学者は300~500人台(『特殊教育資料』でみるとその大多数は病弱養護学校卒業生である)であり、大きな変化はない。一方、高等部へは1979年の進学者数を100として1991年には187と2倍近くに増加している。進学者の内、高等部に進学した者の割合も、1979年の87.6%から1991年には91.8%となっている。

② 75条学級

中学校の75条学級の卒業者に関しては、例えば1979年に進学者の68.9%が高校等に進学していたように、かつては高等部よりも高校等が多かった。それが、1984年以降は逆転し、1991年では高校等に進学したものは31.4%となり、代わって進学者の68.6%が盲・聾・養護学校の高等部に進学している。高校等への進学者数は、1979年を100として1991年には66となっており、単にパーセンテージだけでなく実際の人数も約3分の2に減少している。逆に、高等部への進学者は、1979年(100)から1991年(319)へ3倍以上の人数増加となっている。

(3) 養護学校高等部への進学者の増大 (表3)

表2の合計欄をみると、1979年において進学者の62.5%が高等部へ進学していたのが、1991年に

はさらに増えて81.1%となっている。高等学校に75条学級が開設されていないこともあって、盲・聾・養護学校の高等部は、障害児の進学者の約5分の4を受け入れる後期中等教育機関となっている。中でも、養護学校高等部への進学者が増大している。

表3に、養護学校高等部（本科）1年生の在学者数（K）を示した（なお、養護学校の別科の在籍者は極めて少数か0人である）。1979年を100とすると1991年には234と倍増し、人数的にも1万人台に達している。養護学校高等部への進学者には、盲・聾学校中学部の卒業生も存在するが、多数は養護学校及び75条学級の卒業生である。加えて、中学校の通常の学級からの進学者も無視できない人数に上る。表3では、盲・聾学校を除いて、通常の学級、75条学級及び養護学校の3つを掲載した。

3つの卒業教育機関の高等部への進学者の合計（J）は、養護学校高等部（本科）1年生の在籍者数（K）にほぼ等しい。もちろん、「J」には盲・聾学校の高等部に進学した者が含まれており、「K」には新規卒業生でない浪人進学者や盲・聾学校からの進学者も含まれているので、表3の「卒業機関別比率」はあくまで推計値に過ぎない。しかし、実数に近い値であると思われる。

養護学校中学部卒業生の比率は、1979年に64.0%であったのが1991年には51.1%へと低下している。これに対して、75条学級の卒業生の比率は29.3%から39.8%へ、通常の学級の卒業生の比率は6.7%から9.1%へと上昇している。養護学校の中学部から高等部へ進学する者が増えただけでなく、75条学級の卒業生、さらには通常の学級の卒業生の養護学校高等部への進学が増えていることが分かる。

なお、通常の学級に在籍する障害児数は学校基本調査の項目には存在しないが、通常の学級から高等部に進学した人数から推測することができる。具体的には、1979年に288人であったのが、1987年以降には900人を越えて、3倍以上に増加している。高等部への進学者以外にも障害児は含まれているので、実数はさらに膨らむものと推測される。

3. 進級・進学に伴う在籍者数の変化（表4及び5）

進級・進学に伴って、就学から高等部卒業までの12年間に在籍者数がどのように変動するかをみた。1978年から1991年までのデータからは、1978年度と1979年度の就学児について12年間を追跡することができる（1978年度就学障害児一表4、1979年度就学障害児一表5）。

（1）視覚障害

視覚障害に関しては、盲学校と弱視学級をみた。盲学校は、両年度就学児ともに小学部1年生から中学部3年生までの9年間に、約300人から400人へと計100人程度が増えている。弱視学級は、20人台～50人台と人数的には多くないが学年により変動がある。高等部へは中学校・中学部の新規卒業生ばかりでなく、多数の中途障害者が入学してくるために、高等部の在籍者は中学3年生在籍者の1.5～1.8倍になっている。盲学校の高等部は、前期中等教育に続く後期中等教育機関であるとともに、中途障害者のための教育機関としての役割も大きい。

（2）聴覚障害

聴覚障害に関しては、聾学校と難聴学級をみた。聾学校は、小・中学部の9年間ほとんど増減がない（幼稚部から小学部へ進学する時点で聾学校から通常の学級や75条学級に転出するために減少するといわれている）。難聴学級は、小学校の中学年で増えた後に、中学校へ進学する時点で減少する。聾学校の高等部の在籍者は、聾学校と難聴学級の中学3年生を合計した在籍者数にほぼ等しく、数字的には、中学校の難聴学級の生徒が聾学校の高等部に進学してくることが推測された。

(3) 精神薄弱・肢体不自由・病弱・その他

精神薄弱, 肢体不自由, 病弱などを併せて, 養護学校とその他の75条学級(精神薄弱学級, 肢体不自由学級, 身体虚弱学級, 言語障害学級, 情緒障害学級)をみた。

養護学校は, 1979年度の養護学校教育の義務化の影響を受けて, 1978年度就学児は1年生から2年生への進級に際して在籍者が増えている。総じてみると, 中学部3年生の在籍者の70%前後の人数が小学部1年生時点で在籍し, 小学校6年間で80%程度に増え, 中学校進学時点で95%まで増えるパターンである。

75条学級の精神薄弱学級及び情緒障害学級は, 小学校の中学年で増え, 中学進学に際して一度減少するが中学校で再度増える傾向にある。肢体不自由学級, 身体虚弱学級及び言語障害学級は, 小学校1・2年生の在籍者数が最も多く, 小・中学校の9年間で次第に減少していくパターンである。

養護学校の高等部への卒業機関別の進学者の比率は先に推定したのでここでは言及しない。

II. 都道府県別の分析

1. 盲学校中学部卒業生(表6)

全国総計の分析に加えて, 進学率を中心に, 都道府県別の分析を行った。

盲学校に関しては, 中学部全員の卒業生が進学する進学率100%のところが少ない。14年間に於いて, 最も少ない1981年で27府県(57.4%)が, 最も多い1991年で39都府県(83.0%)が全員進学であった。中でも, 秋田県, 岐阜県, 京都府, 広島県, 大分県, 沖縄県の6府県は, 14年連続で全員進学を達成しており注目された。また, 富山県, 奈良県, 和歌山県の3県は, 13回が全員進学の年であった。

一方, 北海道は一度も全員進学を実現しておらず, 極めて特異であった。また, 福岡県は2回(1979, 1990年), 愛知県は3回(1982, 1984, 1990年)と全員進学の年が少なかった。

盲学校に限らず, こうした都道府県の格差の要因については, 学校基本調査の数字だけでは明らかにすることができない。別途に実態調査を行い, 分析する必要がある。

2. 聾学校中学部卒業生(表7)

聾学校に関しては, さらに盲学校よりも全員進学のところが多い。最も少ない1980年で28府県(59.6%)が, 最も多い1988年で41都府県(87.2%)が全員進学であった。岩手県, 石川県, 山梨県, 滋賀県, 京都府, 高知県, 宮崎県の7府県が, 14年連続で全員進学を達成していた。また, 秋田県, 栃木県, 富山県, 和歌山県, 鳥取県, 広島県, 徳島県, 香川県, 佐賀県, 大分県, 鹿児島県の11県は, 13回が全員進学の年であった。

一方, 兵庫県は一度も全員進学を実現しておらず, 極めて特異であった。また, 北海道は全員進学の年がわずか2回(1982, 1985年)に留まっていた。

3. 養護学校中学部卒業生(表8)

養護学校の都道府県別のデータに関しては, 養護学校全体(国公立私立合計)の数値が公表されているだけなので, 障害種別の分析はできない。

養護学校に関しては, 1990年までの13年間に全員進学を達成した都道府県はなく, 1989年広島県

の99.4%が最高であったが、ついに1991年に徳島県が進学率100%を達成している。これに対して、最低は、1983年島根県の13.5%である。

確かに盲・聾学校には進学率0%（表6及び7の「-」表示）のところが存在するが、これは少人数の卒業生の中で進学者がないか卒業生自身が存在しない年に出現したものであり、恒常的な都道府県格差は指摘した一部の道県に限定されていた。しかし、養護学校の場合には、都道府県の間での格差が恒常的かつ全国的に認められた。

まず、高い進学率の目安として進学率80%以上（表8・網掛け表示）のところをみた。14年間連続が、東京都、京都府、大阪府、広島県の4都府県であった。以下、12回が奈良県、11回が千葉県、和歌山県、10回が神奈川県、石川県、沖縄県、9回が埼玉県、8回が徳島県、7回が滋賀県、6回が山梨県、5回が香川県、高知県、4回が佐賀県、2回が富山県、愛媛県、1回が栃木県、鳥取県である。首都圏及び近畿圏など特定の都府県が高い進学率を示している。

高い進学率の都府県の14年間の進学率の推移には、大きく4つの類型が認められる。

第一は、一貫して80%以上の高い進学率を達成しているところ（ Γ 型：東京都、京都府、大阪府、広島県）である。これら4都府県は、1979年度の義務化以前から障害児の全員就学及び進学保障を進めてきた経緯があり、義務化によりわずかに進学率が低下したものの直ちに回復を示している。京都府と広島県はともに12回が90%以上であり、年によっては95%を越え、99%台という高進学率も実現している。大阪府は、11回が90%以上であるが、95%を越えたことはない。東京都は80%台後半が多く、90%を越えたのは4回である。大阪府や東京都には、京都府・広島県のレベルにあとわずかのところで到達できない何らかの規定要因が推測される。

第二は、義務化前後には80%以上あった進学率が義務化以降に80%未満に下降し、その後再び80%以上に回復したところ（ \cup 型：埼玉県、神奈川県、石川県、山梨県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、沖縄県）である。これらの県は、義務化の全員就学に応じた進学保障の態勢が整わずに一旦は進学率を低下させたことが推測され、その後は次第に進学保障の態勢を整えて進学率を回復している。特に徳島県は落差が大きく、1978年97.6%のベスト2位から1983年48.0%まで半減した後に、再び進学率を高めて1991年にはついに100%を達成している。また、奈良県は、最近では東京都・大阪府を越える90%台の進学率を安定的に示している。

第三は、80%未満であった進学率を次第に高めてきたところ（ \wedge 型：千葉県、滋賀県、鳥取県）である。千葉県は、義務化をはさんで急速に進学率を上げ、隣の東京都を越える90%台の高い進学率を示すまでになっている。滋賀県は、1979年ワースト5位の36.5%から90%前後に達しており、また鳥取県は、1985年ワースト2位の29.5%から80%前後を示すまでになっている。

第四は、義務化までは80%以上であった進学率が義務化以降は次第に低下したところ（ \searrow 型：栃木県、富山県、愛媛県）である。これらの県に関しては、義務化以前の高進学率が、例えば多数の重度・重複児を不就学とした上で達成されていたなどの疑似的数値であったことを推測させる。例えば富山県は、1979年94.7%のベスト3位であった進学率が半減し、最近でも全国平均並かそれ以下となっている。

次に低い進学率の目安として40%未満（表8・アンダーライン表示）のところをみた。13回が北海道、12回が新潟県、11回が福島県、島根県、長崎県、10回が熊本県、9回が秋田県、山口県、8回が山形県、7回が群馬県、大分県、4回が宮城県、3回が鳥取県、2回が青森県、岐阜県、静岡県、岡山県、宮城県、1回が岩手県、茨城県、福井県、長野県、滋賀県、福岡県、鹿児島県である。北海道、東北、北関東、中国、九州といった地方に低い進学率のところが多。

低い進学率の道県の14年間の進学率の推移には、大きく2つの類型が認められる。

第一は、ほぼ一貫して低い進学率となっているところ(↳型：北海道、秋田県、山形県、福島県、群馬県、新潟県、長崎県、熊本県、大分県)である。北海道は、1979年(41.5%)の1回を除いて一貫して20~30%台を低迷している。そして、最近の6年間は連続してワースト4位以下に含まれており、うち最下位が4回である。新潟県は、1980年以降12年連続して40%未満である。福島県は、1991年によやく40%を越えたものの、1980年以降11年連続して40%未満であった。長崎県も、1980年及び1982年以降10年連続して40%未満である。

第二は、40%未満の低い進学率を脱して全国平均前後に進学率を高めているところ(∟型：宮城県、鳥取県、島根県、山口県)である。40%未満が宮城県は4回、鳥取県は3回あったが、最近では全国平均を越えている。40%未満が7回以上の14道県の内、島根県と山口県の2県は、最近になって40%を越えて60%台の進学率を示しており、低い進学率をなんとか脱したと言えよう。

4. 中学校75条学級卒業生(表9)

(1) 進学率

75条学級に関しても、都道府県間の格差の存在が指摘できる。

75条学級卒業生の進学率は、全国平均値が1978年の27.0%から1991年の57.6%へと倍増しており、大きく変化している。進学率80%台の府県がみられるようになったのは1985年(富山県)以降であり、進学率の最高は1989年京都府の87.3%である。これに対して、1桁台の進学率の県もあり、進学率の最低は1979年島根県の5.4%である。しかし、1983年には1桁台の進学率はなくなり、1991年には10%台の進学率も解消され、1991年現在では20%台も残すところ5県となっている。

まず、高い進学率の目安として、養護学校よりも10%低くした70%以上(表9・網掛け表示)のところをみた。10回が京都府、7回が広島県、5回が東京都、神奈川県、富山県、奈良県、4回が大阪府、高知県、3回が石川県、山梨県、徳島県、2回が秋田県、鳥取県、1回が大分県、沖縄県である。

京都府は、1982年に70%台に達した後、10年連続して70%を越えている。さらに、1986年以降は安定して80%台の進学率を維持している。

京都府以外では、年による変動が大きいところもあるが、最近の4年間連続して70%以上は、東京都、神奈川県、大阪府、奈良県、高知県である。これに、富山県と広島県を比較的高い進学率の県として加えることができよう。このうち、神奈川県、高知県は、1978年に10%台という低い状況から、約10年の間に70%を越える進学率へと変化している。

次に、低い進学率の目安として、養護学校と同様に40%未満(表9・アンダーライン表示)のところをみた。14年連続が、茨城県、栃木県、静岡県、滋賀県である。以下、13回が福島県、新潟県、12回が宮城県、愛知県、島根県、熊本県、宮崎県、11回が岩手県、千葉県、愛媛県、長崎県、10回が福井県、佐賀県、9回が群馬県、岐阜県、三重県、鹿児島県、8回が青森県、7回が埼玉県、6回が北海道、山形県、5回が沖縄県、4回が兵庫県、徳島県、高知県、3回が神奈川県、鳥取県、山口県、福岡県、2回が秋田県、1回が富山県、石川県、長野県、香川県である。40%未満が14年間に1度もないのは、東京都、山梨県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、広島県、大分県の9都府県である。

低い進学率の県のうち、静岡県は1991年になるまで13年連続して20%未満であり、特徴的であった。茨城県、栃木県は、14年間一貫して30%未満である。新潟県も、1978年を除いて13年連続で30

%未満である。

(2) 進学機関 (表10)

『学校基本調査報告書』には、75条学級に関してのみ、進学機関別の人数が都道府県別に掲載されている。表10においては、5年おきに1980年・1985年・1990年について、進学者の進学機関別(高校等・高等部)の内訳をみるとともに、「進学」には含まれないが75条学級卒業者の進路にあつては「進学」に匹敵する「教育訓練機関等入学」に関しても同時にみた。

①高校等進学タイプ

高校等への進学者を全国総計で見ると、1980年3,471人(26.2%)、1985年2,388人(21.4%)、1990年1,751人(16.9%)と、人数・率ともに減少傾向にある。しかし、都道府県別にみると、卒業者の50%以上が高校等に進学しているところ(高校等進学タイプ)もある。

具体的には、秋田県(1980・85年)、富山県(1980年)、石川県(1980年)、山梨県(1980年)、長野県(1980年)、鳥取県(1990年)、岡山県(1980年)、広島県(1980年)、愛媛県(1980年)、佐賀県(1980年)、大分県(1980・85・90年)である。この内、大分県は3か年いずれも50%以上であり、また、山梨県及び広島県は3か年いずれも40%以上と、恒常的に高校等への高い進学率を維持しており特徴的であった。

②高等部進学タイプ

高等部への進学者を全国総計で見ると、1980年1,528人(11.5%)、1985年2,884人(25.9%)、1990年4,116人(39.7%)と、人数・率ともに増加傾向にある。これも都道府県別にみると、卒業者の50%以上が高等部に進学しているところ(高等部進学タイプ)がある。

具体的には、埼玉県(1990年)、東京都(1985・90年)、神奈川県(1985・90年)、富山県(1990年)、石川県(1990年)、京都府(1985・90年)、大阪府(1990年)、兵庫県(1990年)、奈良県(1990年)、高知県(1990年)である。この内、東京都、京都府、大阪府、奈良県の4都府県は、1980年からすでに30%以上の高率を示していた。富山県及び石川県は、1980年に高校等進学タイプであったものが、10年後の1990年には高等部進学タイプに転換しており、特徴的であった。

③教育訓練機関等入学

教育訓練機関等への入学者を全国総計で見ると、1980年1,869人(14.1%)、1985年1,363人(12.2%)、1990年910人(8.8%)と、人数・率ともに減少傾向にある。都道府県別にみると、特にタイプとして取り出せるほどの高率ではないが、滋賀県のように3か年いずれも20%前後を示している県がある。また、静岡県(1985年33.1%)、岩手県(1980年29.3%)など、年によっては30%前後の率を示しているところもある。

5. 養護学校及び75条学級のクロス (図1, 2及び3)

養護学校及び75条学級の進学率は、都道府県間に大きな格差がみられた。これら2つの進学率をクロスさせることによって、各都道府県の養護学校及び75条学級の進学率の類型を調べた。すなわち、全国平均値を境に、A(養高・級高:養護学校・75条学級ともに全国平均以上)、B(養高・級低:養護学校は全国平均以上、75条学級は全国平均未満)、C(養低・級高:養護学校は全国平均未満、75条学級は全国平均以上)、D(養低・級低:養護学校・75条学級ともに全国平均未満)の4グループである。とりあえず、ここでは1980年及び1990年の各々とその10年間の変化をみた。

まず、1980年(図1)についてみると、進学率の全国平均は、養護学校中学部卒業者が60.0%、

中学校75条学級卒業者が37.7%であった。Aグループは、山梨県、京都府、奈良県、広島県などの15都府県(31.9%)であった。Bグループは、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、愛知県、鳥取県、高知県、沖縄県の8県(17.0%)であった。Cグループは、秋田県、三重県、岡山県、福岡県、大分県の5県(10.6%)であった。Dグループは、北海道、青森県、福島県、群馬県、新潟県、静岡県、島根県、長崎県などの19道県(40.4%)であった。

次に、1990年(図2)についてみると、進学率の全国平均値は、養護学校中学部卒業者が69.8%、中学校75条学級卒業者が56.6%であった。Aグループは、東京都、神奈川県、石川県、京都府、大阪府、奈良県、鳥取県、広島県など16都府県(34.0%)であった。Bグループは、青森県、千葉県、福井県、長野県、愛知県、滋賀県の6県(12.8%)であった。Cグループは、北海道、山形県、富山県、岡山県、山口県、福岡県、大分県の7道県(14.9%)であった。Dグループは、福島県、新潟県、静岡県、長崎県、熊本県などの18県(38.3%)であった。

10年間の変化(図3)をみると、両年ともにA(養高・級高)グループであったのは、東京都、石川県、山梨県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県、広島県、徳島県、香川県、佐賀県の12都府県(25.5%)である。1990年にAグループへ移行したのは、埼玉県、神奈川県、鳥取県、高知県(いずれもBから)の4県(8.5%)であった。なお、1990年において養護学校中学部卒業者の進学率が80%以上であり、かつ中学校75条学級卒業者の進学率が70%以上のところは、東京都(養護学校91.3%、75条学級78.0%)、神奈川県(84.7%、79.1%)、石川県(88.5%、85.7%)、京都府(97.4%、87.2%)、大阪府(92.4%、76.5%)、奈良県(92.6%、76.5%)、鳥取県(82.6%、81.2%)、広島県(95.7%、75.6%)であった。これらの8都府県は、Aグループの中でも特に双方の進学率の高いところであり、特徴的であった。

両年ともにB(養高・級低)グループであったのは、千葉県、長野県、愛知県の3県(6.4%)である。これらの県は、養護学校は全国平均以上であるにもかかわらず、75条学級に関しては全国平均未満という特徴的なケースであった。なお、1990年にBグループへ移行したのは、青森県、福井県、滋賀県(いずれもDから)の3県(6.4%)であるが、Aグループへ移行する過渡的現象か否かは今後の推移を見て判断されよう。

両年ともにC(養低・級高)グループであったのは、岡山県、福岡県、大分県の3県(6.4%)である。これらの県は、Bグループとは逆に、養護学校は全国平均未満であるにもかかわらず、75条学級に関しては全国平均以上という特徴的なケースであった。1990年にCグループへ移行したのは、北海道、山形県、山口県(以上はDから)、富山県(Aから)の4道県(8.5%)であった。

両年ともにD(養低・級低)グループであったのは、岩手県、宮城県、福島県、栃木県、群馬県、新潟県、静岡県、岐阜県、島根県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県の13県(27.7%)である。1990年にDグループへ移行したのは、秋田県、三重県(以上はCから)、茨城県(Bから)、愛媛県、佐賀県(ともにAから)の5県(10.6%)であった。なお、1990年において双方の進学率がともに40%未満のところは、福島県(31.7%、24.3%)、新潟県(32.2%、11.2%)、長崎県(33.9%、30.0%)の3県であり、Dグループの中でも特に双方の進学率の低いところであり、特徴的であった。

III. 各都道府県の特徴

本稿の特長は、全国総計に加えて、都道府県別のデータ処理を行った点である。日本の学校教育は都道府県間にあまり差がなく、否定的な意味では画一的とも言われるが、肯定的には一定の水準

が全国的に確保されているとも言える。国の教育白書『我が国の教育水準』などにおいても、全国総計の数字が示されるために、国内外から日本の教育は全国均一的に理解される傾向にあった。障害児の後期中等教育への進学に関しても、同様である。今回明らかにしたような教育機関や都道府県の間での格差の存在は、従来ほとんど認識されていない。

障害児の後期中等教育への進学の実態を明らかにしようとした先行研究には、大きく3つのものがある。1つは、特定の学校・学級に関する調査である²⁾。2つは、特定の自治体に関する調査である³⁾。そして、3つは、全国的な調査・白書のたぐいである⁴⁾。障害児の後期中等教育への進学実態を解明するには、いずれも重要な調査である。しかし、都道府県の特徴や格差に言及したものは少ない。特定の自治体や学校・学級の調査の場合にも、対象とする自治体や学校・学級が全国的にみてどのような特徴を有し、どのような位置にあるのかを規定した上で行われる必要がある。なお、都道府県別の実態の解明と、都道府県間の格差の規定要因の分析は今後の課題としたい。

最後に、各都道府県別に1990年のクロス図(図2)におけるグループを記載した後、主に近年の進学状況の特徴を要約しておく。その際、盲学校は[盲]、聾学校は[聾]、養護学校は[養]、75条学級は[75]と略記する。

- [北海道] C：[75]は全国平均並か少し高いが、[養]は最近6年間連続してワースト4位以下となっている。また、[盲]は14年間100%進学を一度も達成していない唯一のところである。[聾]も100%進学でないことの多い少数少ないところに含まれる。
- [青森] B：[養]は60~70%台である。[75]は50%台で全国平均並である。東北地方の中では比較的進学率が良い。
- [岩手] D：[養]はようやく50%台になった。[75]は30~40%台である。
- [宮城] D：[養]はこの5年間で30%台から70%台へと上がっている。[75]は40%未満である。
- [秋田] D：[養]はようやく40%を越えた。[75]は、かつてはベスト2・3位という年もあった(高校等に多数が進学)が、最近是全国平均並である。
- [山形] C：[養]はこの4年間40%未満である。[75]は全国平均並である。
- [福島] D：[養][75]ともに40%未満の年が多い。双方ともに進学率の低い県である。
- [茨城] D：[養]は70%台になってきた。[75]は14年連続して30%未満である。
- [栃木] D：[養]は40~50%台である。[75]は14年連続して30%未満である。
- [群馬] D：[養]は30~40%台である。[75]はようやく40%を越えて50%となっている。
- [埼玉] A：[養]は80~90%台となっている。[75]は50~60%台の全国平均並である。
- [千葉] A：[養]は安定して90%台となっている。[75]は40~50%台と全国平均未満である。
- [東京] A：[養]は80~90%台である。[75]も次第に上昇して70%台となっている。双方ともに高率のところに含まれる。
- [神奈川] A：[養]は80%台である。[75]は1978年の10%台から上昇して70%台となっている。双方ともに高率の県である。
- [新潟] D：[養]は12年連続して40%未満である。[75]は13年連続して30%未満である。双方ともに低率の県である。
- [富山] C：[養]は1987年の50%台から70%台に上がっている。[75]は70~80%台の年もある。[養]からかつては高校等に多数が進学していたが、今は高等部の方に多数が進学している。
- [石川] A：[養]は義務化で一度60%台に落ちた後に、80%台に回復している。[75]はこの2年間70%を越えている。富山県と同様に、[75]は高校等進学タイプから高等部進学タイプに

転換している。進学率の低い日本海側にあつて、比較的進学率がよい。

- [福井] B: [養]は1987年の50%台から70%台に上がっている。[75]も近年は40%を越えて50%台になっている。
- [山梨] A: [養]はこの3年は80~90%台である。[75]はこの4年間60~70%台である。[75]から高校等に進学する者が50%近くおり、高校等進学タイプの県である。
- [長野] B: [養]は義務化で一度30%台に落ちた後に回復して、70%台となっている。[75]は50~60%台である。[75]から高校等に進学する者が多い県に含まれる。
- [岐阜] D: [養]は1988年の50%からこの4年間に30%近く進学率を上げて78%となっている。[75]も50%台になっている。
- [静岡] D: [養]は40~50%台である。[75]は、1991年に20%台になるまで過去13年間連続して20%未満であった。[75]から教育訓練機関等に入学する者が比較的多い。
- [愛知] B: [養]は1990・91年と70%台である。[75]は連続して40%未満であった後、ようやくこの2年で40%台となっている。[75]は100%進学でない年の多い数少ない県に含まれる。
- [三重] D: [養]は70%台が多いが、クロス図を作成した1990年は全国平均未満であった。[75]は30%である。
- [滋賀] B: [養]は80~90%台である。[75]は20~30%台である。近畿の中では唯一、[75]が低率のBグループである。[75]から教育訓練機関等に入学する者が比較的多い県である。
- [京都] A: [養]は安定して90%台である。[75]も安定して80%台である。双方ともにベスト2位以上の年が多く、障害児の進学率が全国一安定的に高いところである。
- [大阪] A: [養]は安定して90%台である。[75]は70%台になっている。双方ともに高率である。
- [兵庫] A: [養]は、近畿の中にあつては比較的lowだったが、80%に近づいている。[75]は60%台になっている。なお、[75]は14年間100%進学を一度も達成していない唯一の県である。
- [奈良] A: [養]は90%台となっている。[75]は70~80%台となっている。双方ともに高率である。
- [和歌山] A: [養]は80%台から1991年には90%台となっている。[75]は50~60%台である。
- [鳥取] A: [養]は70~80%台となっている。[75]は1990年はベスト3位の80%台であったが、50%台が多い。クロス図を作成した1990年は特に双方がともに高率であった。なお、[75]から高校等への進学が比較的多い県である。
- [島根] D: [養]はこの4年間で30%台から60%台へ上げている。[75]は1桁台の年もあつたが、ようやくこの2年に40%を越えた。
- [岡山] C: [養]は40~50%台である。[75]は50~60%台である。
- [広島] A: [養]は安定して90%台であり、京都府とベスト1位を競い合っている。[75]は60~70%台である。[75]は高校等進学タイプの県である。
- [山口] C: [養]は20~30%台であったものを4年間で70%近くにまで上げている。[75]も60%台へ上昇している。
- [徳島] A: [養]は1991年について全国で初めての100%を達成した。[75]は70%台の年もあるが50~60%台である。
- [香川] A: [養]は70~80%台である。[75]は50~60%台である。
- [愛媛] D: [養]は70%台の年もあつたが、50~60%である。[75]はこの4年間で60%台から30%台へと低下している。四国の中で唯一のDグループである。
- [高知] A: [養]は1989年に90%台であったが、この2年は70%台である。[75]は1988年にベスト1

位であったが、この3年は70%台である。

- [福岡] C：[養]は全国平均並であり、1991年には70%台となっている。[75]この5年間60%台であり変化がない。[固]は100%進学でない年の多い数少ない県に含まれる。
- [佐賀] D：[養]はこの3年間に80%台から60%台へと低下している。[75]は30～40%台である。
- [長崎] D：[養]はこの10年間連続して40%未満となっている。[75]は、年によりアンバランスで、1988・91年には全国平均を越えているが、40%未満の年が多い。
- [熊本] D：[養]はこの2年ようやく40%台となっている。[75]は30～40%台となっている。
- [大分] C：[養]はこの4年間連続して40%未満である。[75]はかつてはベスト5位以内の年もあったが、最近では50～60%台である。[75]は高校等進学タイプの県である。
- [宮崎] D：[養]は40～50%台である。[75]は1988・91年が40%台であった他は40%未満である。
- [鹿児島] D：[養]は次第に上昇して1991年には70%台になっている。[75]も次第に上昇し全国平均に近づいている。
- [沖縄] A：[養]は70～80%台である。[75]はこの4年間で70%台から50%台へと低下している。

《註》

- 1) 障害児の後期中等教育に関する、渡部のこれまでの論稿は以下のとおりである。
 - ①「高等部への希望者全入をどうすすめるか」『ブックレット全障研① 花ひらけ“十五の春”』全国障害者問題研究会出版部（1989）。
 - ②「障害児の希望者全員進学実現への論理と課題」『障害者問題研究』第59号（1989）。
 - ③「障害児と中等教育制度」『教育』第40巻第3号（1990）。
 - ④「青年期教育としての後期中等教育」『障害児教育実践ハンドブック』労働旬報社（1991）。
 - ⑤「義務教育以降の教育保障」『障害者の人権 20の課題』全国障害者問題研究会出版部（1992）。
- 2) <特定の学校・学級に関する調査>には、例えば以下のものがある。
 - ①後藤守・小笠原詠子「精神遅滞児における特殊学級卒業後の動向（I）」『北海道教育大学紀要 第一部C 教育科学編』第33巻第2号（1983）[対象：北海道教育大学附属札幌小中学校特殊学級]。
 - ②後藤守・小笠原詠子「特殊教育における後期中等教育の現状と課題」『北海道教育大学紀要 第一部C 教育科学編』第39巻第1号（1988）[同上]。
- 3) <特定の自治体に関する調査>には、例えば以下のものがある。
 - ①研究協議会「養護学校教育の義務制にかかわる諸問題に関する研究（III）一身心に障害を持つ生徒の後期中等教育段階での問題について一」『愛知県教育センター研究紀要』第75集（1986）[愛知県立特殊教育諸学校 中学部・高等部及び名古屋市を除く愛知県下の公立中学校特殊学級]。
 - ②田中良三「障害児の後期中等教育の保障—愛知県における障害児学校高等部の現状と課題—」『愛知県立大学文学部論集（児童教育学科編）』第34号（1984）。
- 4) <全国的な調査・白書>には、例えば以下のものがある。
 - ①日本精神薄弱者福祉連盟『精神薄弱問題白書』（各年度）日本文化科学社。
 - ②日本教職員組合『障害児教育白書No.2—障害児学校卒業生の進路実態—』（1984）。

（1992年4月20日受理）

表1. 義務教育終了後の進学者数及び進学率の推移

卒業年	中学校卒業者		盲学校中学部 卒業者 人数(進学率)	聾学校中学部 卒業者 人数(進学率)	養護学校中学部 卒業者 人数(進学率)	精神薄弱 (進学率)	肢体不自由 (進学率)	病弱 (進学率)
	進学者数(進学率)	75条学級卒業者 人数(進学率)						
3月 1950	人 (%) 674,289(42.5)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	(%)	(%)	(%)
1951	781,294(45.6)							
1952	800,463(47.6)							
1953	843,383(48.3)							
1954	779,263(50.9)							
1955	857,032(51.5)							
1956	961,006(51.3)							
1957	1,027,250(51.4)							
1958	1,018,260(53.7)							
1959	1,093,723(55.4)							
1960	1,022,424(57.7)							
1961	872,918(62.3)							
*1962	1,247,314(64.0)							
1963	1,664,404(66.8)							
1964	1,681,625(69.3)							
1965	1,667,080(70.7)							
1966	1,543,480(72.3)							
1967	1,450,867(74.5)		843(96.9)	1,468(84.5)	564(27.9)			
1968	1,417,591(76.8)	329(2.9)	783(93.5)	1,398(85.4)	697(30.8)			
1969	1,378,960(79.4)	1,243(7.9)	778(94.6)	1,363(87.3)	915(36.0)			
1970	1,368,898(82.1)	1,680(9.8)	820(94.4)	1,377(89.9)	1,039(36.9)			
1971	1,377,670(85.0)	1,452(8.4)	716(94.7)	1,223(90.2)	1,208(43.0)			
1972	1,360,889(87.2)	2,127(12.0)	692(93.3)	1,212(94.2)	1,502(51.7)			
*1973	1,379,737(89.4)	1,609(9.7)	672(95.6)	1,096(93.8)	1,831(57.3)			
1974	1,473,882(90.8)	2,036(12.0)	614(96.4)	1,078(95.2)	2,031(57.5)			
1975	1,453,165(91.9)	2,769(17.1)	567(93.6)	967(95.0)	2,332(62.6)			
1976	1,447,702(92.6)	4,887(28.5)	545(97.3)	910(96.7)	2,563(65.5)			
1977	1,470,754(93.1)	4,374(28.7)	468(94.9)	1,006(97.2)	2,609(66.5)			
1978	1,502,482(93.5)	3,802(27.1)	507(93.9)	889(96.6)	2,879(68.2)			
1979	1,536,659(94.0)	4,037(30.3)	433(93.9)	857(96.9)	3,147(66.8)			
1980	1,623,759(94.2)	4,997(37.7)	439(91.5)	754(96.2)	3,580(60.6)	(50.3)		
1981	1,581,772(94.3)	4,622(38.1)	419(92.5)	1,033(96.8)	3,928(63.1)	(55.2)		
1982	1,468,233(94.3)	4,424(39.8)	358(91.8)	725(98.4)	4,058(62.6)	(55.3)		
1983	1,739,093(94.0)	5,102(42.7)	429(91.1)	816(98.3)	4,392(52.2)	(46.4)		
*1984	1,772,224(94.1)	5,281(45.9)	438(95.8)	686(97.6)	4,618(61.8)	(55.7)		
1985	1,771,644(94.1)	5,272(47.3)	414(94.3)	652(98.5)	4,724(62.9)	(56.9)		
1986	1,821,405(94.2)	5,816(49.5)	379(94.5)	604(97.3)	4,991(63.3)	(57.4)		
1987	1,890,559(94.3)	5,958(51.3)	396(94.1)	574(98.6)	5,347(65.6)	(60.7)	(80.5)	(66.1)
1988	1,933,055(94.5)	6,139(54.1)	395(95.0)	543(97.7)	5,770(65.9)	(62.4)	(75.2)	(68.4)
1989	1,941,320(94.7)	6,198(55.0)	353(95.1)	532(97.6)	5,730(67.8)	(63.9)	(79.4)	(70.6)
1990	1,884,183(95.1)	5,867(56.6)	282(93.1)	495(98.2)	5,751(69.8)	(66.9)	(79.8)	(69.5)
1991	1,774,056(95.4)	5,869(57.6)	268(96.4)	507(98.6)	5,644(72.6)	(69.7)	(83.4)	(71.1)

注1) 『学校基本調査報告書』より作成。養護学校の障害種別に関してのみ、「特殊教育資料」及び『精神薄弱者問題白書』より作成。

2) *1973年以降は沖縄県を含む。

3) 「進学者」とは、高等学校の本科(全日制及び定時制。*1984年以降は、通信制課程を含む)及び別科、高等専門学校(*1962年以降)、盲・聾・養護学校高等部の本科及び別科に進学した者(就職進学者を含む)をいう。数字は、卒業年3月の新規卒業者のうちの進学者(5月1日現在在学のもの)の人数及び進学率である。ただし、「75条学級」に関しては、1975年以前(一線以前)には就職進学者を含んでいない。

表2. 中学校75条学級及び盲・聾・養護学校中学部卒業者の進学機関

卒業年	中学校75条学級卒の進学者		盲学校中学部卒の進学者		聾学校中学部卒の進学者		養護学校中学部卒の進学者		高校等合計 A+C+E+G	高等部合計 B+D+F+H
	A. 高校等	B. 高等部	C. 高校等	D. 高等部	E. 高校等	F. 高等部	G. 高校等	H. 高等部		
1978年3月	人 …	人 …	20(200)	487(115)	14(175)	875(103)	358(92)	2,521(91)	人 …	人 …
1979	2,773(100)	1,264(100)	10(100)	423(100)	8(100)	849(100)	390(100)	2,757(100)	3,181(100)	5,293(100)
1980	3,471(125)	1,528(121)	8(80)	431(102)	11(138)	743(88)	472(121)	3,108(113)	3,962(125)	5,810(110)
1981	2,914(105)	1,708(135)	13(130)	406(96)	19(238)	1,014(119)	441(113)	3,487(126)	3,387(106)	6,615(125)
1982	2,599(94)	1,740(138)	15(150)	343(81)	18(225)	707(83)	368(94)	3,679(133)	3,000(94)	6,469(122)
1983	2,763(100)	2,287(181)	16(160)	413(98)	8(100)	808(95)	407(104)	3,985(145)	3,194(100)	7,493(142)
1984	2,603(94)	2,678(212)	10(100)	428(101)	12(150)	674(79)	458(117)	4,160(151)	3,083(97)	7,940(150)
1985	2,388(86)	2,884(228)	8(80)	406(96)	11(138)	641(76)	480(123)	4,244(154)	2,887(91)	8,175(154)
1986	2,491(90)	3,325(263)	15(150)	364(86)	10(125)	594(70)	445(114)	4,546(165)	2,961(93)	8,829(167)
1987	2,352(85)	3,606(285)	7(70)	389(92)	5(63)	569(67)	486(125)	4,861(176)	2,850(90)	9,425(178)
1988	2,181(79)	3,958(313)	15(150)	380(90)	14(175)	529(62)	512(131)	5,258(191)	2,722(86)	10,125(191)
1989	1,942(70)	4,256(337)	12(120)	341(81)	8(100)	524(62)	529(136)	5,201(189)	2,491(78)	10,322(195)
1990	1,751(63)	4,116(326)	7(70)	275(65)	13(163)	482(57)	432(111)	5,319(193)	2,203(69)	10,192(193)
1991	1,840(66)	4,029(319)	15(150)	253(60)	8(100)	499(59)	462(118)	5,167(187)	2,325(73)	9,948(188)

- 注1) 「学校基本調査報告書」より作成。
 2) 「高校等」とは、高等学校の本科及び別科、高等専門学校への進学者をさす。
 3) 「高等部」とは、盲・聾・養護学校高等部の本科及び別科への進学者をさす。
 4) 75条学級に関して、1978年の進学機関別の人数は不明である。

表3. 養護学校高等部への進学者の卒業機関別人数の推計

卒業年	中学校通常の学級卒の進学者 I. 高等部	中学校75条学級卒の進学者		養護学校中学部卒の進学者		高校等 A+G	J. 高等部 I+B+H	卒業機関別比率			K. 高等部1学年 在学者数	J/K
		A. 高校等	B. 高等部	G. 高校等	H. 高等部			I/J	B/J	H/J		
1978年3月	人 …	人 …	人 …	人 …	人 …	人 …	人 …	% …	% …	% …	人 …	…
1979	288(100)	2,773(100)	1,264(100)	390(100)	2,757(100)	3,163(100)	4,309(100)	6.7	29.3	64.0	4,377(100)	0.98
1980	381(132)	3,471(125)	1,528(121)	472(121)	3,108(113)	3,943(125)	5,017(116)	7.6	30.5	61.9	5,169(118)	0.97
1981	428(149)	2,914(105)	1,708(135)	441(113)	3,487(126)	3,355(106)	5,623(130)	7.6	30.4	62.0	5,650(129)	1.00
1982	410(142)	2,599(94)	1,740(138)	368(94)	3,679(133)	2,967(94)	5,829(135)	7.0	29.9	63.1	5,921(135)	0.98
1983	604(210)	2,763(100)	2,287(181)	407(104)	3,985(145)	3,170(100)	6,876(160)	8.8	33.3	58.0	6,909(158)	1.00
1984	733(255)	2,603(94)	2,678(212)	458(117)	4,160(151)	3,061(97)	7,571(176)	9.7	35.4	54.9	7,621(174)	0.99
1985	708(242)	2,388(86)	2,884(228)	480(123)	4,244(154)	2,868(91)	7,836(182)	9.0	36.8	54.2	7,892(180)	0.99
1986	840(292)	2,491(90)	3,325(263)	445(114)	4,546(165)	2,936(93)	8,711(202)	9.6	38.2	52.2	8,813(201)	0.99
1987	934(324)	2,352(85)	3,606(285)	486(125)	4,861(176)	2,838(90)	9,401(218)	9.9	38.4	51.7	9,468(216)	0.99
1988	1,037(360)	2,181(79)	3,958(313)	512(131)	5,258(191)	2,693(85)	10,253(238)	10.1	38.6	51.3	10,329(236)	0.99
1989	920(319)	1,942(70)	4,256(337)	529(136)	5,201(189)	2,471(78)	10,377(241)	8.9	41.0	50.1	10,462(239)	0.99
1990	1,033(359)	1,751(63)	4,116(326)	432(111)	5,319(193)	2,183(69)	10,468(243)	9.9	39.3	50.8	10,521(240)	0.99
1991	924(321)	1,840(66)	4,029(319)	462(118)	5,167(187)	2,302(73)	10,120(235)	9.1	39.8	51.1	10,238(234)	0.99

- 注1) 「学校基本調査報告書」より作成。
 2) 「高校等」とは、高等学校の本科及び別科、高等専門学校への進学者をさす。
 3) 「高等部」とは、盲・聾・養護学校高等部の本科及び別科への進学者をさす。
 4) 「A・B・G・H」は表2の再掲である。
 5) 「I」は、「学校基本調査報告書」の中学校卒業者の「盲・聾・養護学校高等部進学者(本科及び別科)」の人数から75条学級分の「B」を減じて算出した。
 6) 「I」「B」「H」及びそれらの和である「J」は、養護学校だけでなく、少数ではあるが盲・聾学校の高等部への進学者を含んだ人数である。
 7) 「K」は、養護学校高等部本科1年生の在学者数である。「J」はほぼ「K」に等しい。
 8) ()内の数字は、1979年の人数を100とした指数である。

表4. 1978年度就学障害児の進級・進学に伴う在籍者数の年次推移

年 度	学 年	視 覚 障 害			聴 覚 障 害			精神薄弱・肢体不自由・病弱・その他							
		盲学校	弱視学級	小 計	聾学校	難聴学級	小 計	養護学校	精神薄弱学級	肢体不自由学級	身体虚弱学級	言語障害学級	情緒障害学級	小 計	
1978	小1年	304 (72)	39 (130)	343 (76)	614 (106)	189 (124)	803 (109)	3,731 (45)	4,563 (47)	368 (283)	995 (748)	1,134 (1597)	703 (53)	11,494 (58)	
1979	2	324 (77)	46 (153)	370 (82)	583 (100)	247 (161)	830 (113)	5,744 (69)	7,942 (82)	289 (222)	1,102 (829)	1,525 (2148)	977 (73)	17,579 (89)	
1980	3	330 (79)	52 (173)	382 (85)	565 (97)	258 (169)	823 (112)	6,138 (74)	10,613 (109)	254 (195)	658 (495)	1,334 (1879)	1,123 (84)	20,120 (102)	
1981	4	333 (79)	47 (157)	380 (84)	553 (95)	282 (184)	835 (114)	6,329 (76)	11,225 (116)	227 (175)	621 (467)	1,097 (1545)	1,147 (86)	20,646 (105)	
1982	5	351 (84)	46 (153)	397 (88)	551 (95)	292 (191)	843 (115)	6,440 (77)	10,867 (112)	228 (175)	494 (371)	940 (1324)	1,146 (86)	20,115 (102)	
1983	6	363 (86)	45 (150)	408 (91)	545 (94)	275 (180)	820 (112)	6,634 (79)	10,146 (104)	203 (156)	419 (315)	792 (1115)	1,161 (87)	19,355 (98)	
1984	中1年	401 (95)	32 (107)	433 (96)	574 (99)	154 (101)	728 (99)	7,915 (95)	9,089 (94)	128 (98)	106 (80)	95 (134)	845 (63)	18,178 (92)	
1985	2	414 (99)	29 (97)	443 (98)	576 (99)	157 (103)	733 (100)	8,156 (98)	10,417 (107)	129 (99)	181 (136)	101 (142)	1,100 (82)	20,084 (102)	
1986	3	420 (100)	30 (100)	450 (100)	581 (100)	153 (100)	734 (100)	8,355 (100)	9,712 (100)	130 (100)	133 (100)	71 (100)	1,340 (100)	19,741 (100)	
1987	卒業者 3月卒業	421	*		582	*		8,154	*75条学級 合計11,615						
	進学者	388[高等部本科]	*		565[同]	*		4,861[同]	*75条学級 合計 3,606 [高等部本科及び別科]						
1987	高1年	795		795 (177)	710		710 (97)	9,468							9,468 (48)
1988	高等部本科 2	744		744 (165)	706		706 (96)	9,320							9,320 (47)
1989	高等部本科 3	703		703 (156)	697		697 (95)	9,095							9,095 (46)
1990	卒業者 3月卒業	699			691			8,911							
	進学者	329			263			72							

注1) 『学校基本調査報告書』より作成。

2) *印の75条学級の卒業者・進学者に関しては、合計人数しか公表されていないので、「合計」として一括して表示した。

3) 中学校(中学部)卒業後の進学者は高等部本科に進学した者のみを表示した。また、高等部の学年別在籍者数及び高等部卒業者数も高等部本科に関する数字である。

4) 単位:人。()内の数字は、中学校(中学部)3年生を100とした在籍者数の指数である。

表5. 1979年度就学障害児の進級・進学に伴う在籍者数の年次推移

年 度	学 年	視 覚 障 害			聴 覚 障 害			精神薄弱・肢体不自由・病弱・その他							
		盲学校	弱視学級	小 計	聾学校	難聴学級	小 計	養護学校	精神薄弱学級	肢体不自由学級	身体虚弱学級	言語障害学級	情緒障害学級	小 計	
1979	小1年	301 (72)	31 (115)	332 (74)	592 (106)	193 (139)	785 (113)	5,983 (67)	4,510 (49)	212 (212)	873 (716)	1,312 (1704)	854 (55)	13,744 (68)	
1980	2	314 (75)	40 (148)	344 (79)	567 (101)	247 (178)	814 (117)	6,444 (72)	8,205 (88)	198 (198)	1,032 (846)	1,687 (2190)	1,118 (72)	18,684 (93)	
1981	3	326 (78)	41 (152)	367 (82)	543 (97)	236 (170)	779 (112)	6,670 (74)	10,575 (114)	192 (192)	600 (492)	1,437 (1866)	1,290 (83)	20,764 (103)	
1982	4	343 (82)	40 (148)	383 (86)	533 (95)	247 (178)	780 (112)	6,700 (75)	11,247 (121)	180 (180)	601 (493)	1,252 (1626)	1,368 (88)	21,348 (106)	
1983	5	347 (83)	42 (156)	389 (87)	519 (93)	245 (176)	764 (110)	6,935 (77)	10,847 (117)	179 (179)	502 (411)	1,045 (1357)	1,411 (90)	20,919 (104)	
1984	6	352 (84)	43 (159)	395 (89)	522 (93)	228 (164)	750 (108)	7,048 (79)	10,225 (110)	171 (171)	401 (329)	826 (1072)	1,430 (92)	20,101 (100)	
1985	中1年	402 (96)	24 (89)	426 (96)	544 (97)	141 (101)	685 (96)	8,506 (95)	8,859 (95)	105 (105)	105 (86)	94 (122)	968 (62)	18,637 (93)	
1986	2	418 (100)	25 (93)	443 (99)	551 (99)	148 (106)	699 (101)	8,746 (98)	9,919 (107)	116 (116)	108 (89)	92 (119)	1,254 (80)	20,235 (101)	
1987	3	419 (100)	27 (100)	446 (100)	559 (100)	139 (100)	698 (100)	8,969 (100)	9,289 (100)	100 (100)	122 (100)	77 (100)	1,561 (100)	20,118 (100)	
1988	卒業者 3月卒業	416	*		556	*		8,751	*75条学級 合計11,353						
	進学者	379[高等部本科]	*		505[同]	*		5,229[同]	*75条学級 合計 3,958 [高等部本科及び別科]						
1988	高1年	757		757 (170)	666		666 (96)	10,329							10,329 (51)
1989	高等部本科 2	697		697 (156)	664		664 (96)	10,144							10,144 (50)
1990	高等部本科 3	663		663 (149)	658		658 (95)	9,909							9,909 (49)
1991	卒業者 3月卒業	638			646			9,654							
	進学者	297			253			60							

注1) 『学校基本調査報告書』より作成。

2) *印の75条学級の卒業者・進学者に関しては、合計人数しか公表されていないので、「合計」として一括して表示した。

3) 中学校(中学部)卒業後の進学者は高等部本科に進学した者のみを表示した。また、高等部の学年別在籍者数及び高等部卒業者数も高等部本科に関する数字である。

4) 単位:人。()内の数字は、中学校(中学部)3年生を100とした在籍者数の指数である。

表 6. 盲学校中・高卒業者の進学率の推移（都道府県別）

卒業年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
全国計	93.9	93.9	91.3	92.5	91.8	91.1	95.8	94.3	94.5	94.1	95.0	95.1	93.1	96.4
国立	100.0							100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	91.7	100.0
公立	94.1							94.1	94.3	93.8	94.8	94.9	93.1	96.1
私立	—							100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
計内訳														
北海道	82.9	71.8	71.4	82.1	81.8	82.4	86.2	83.8	83.9	77.4	81.5	85.7	80.6	94.4
青森	87.5	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0	85.7	100.0	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0
岩手	100.0	100.0	75.0	85.7	87.5	84.6	83.3	100.0	100.0	80.0	100.0	100.0	85.7	100.0
宮城	100.0	75.0	100.0	85.7	100.0	85.7	100.0	83.3	87.5	88.9	85.7	87.5	100.0	100.0
秋田	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
山形	100.0	91.7	68.8	100.0	83.3	90.9	90.0	100.0	100.0	100.0	60.0	66.7	66.7	50.0
福島	100.0	100.0	100.0	88.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	71.4	100.0
茨城	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	71.4	100.0	100.0
栃木	83.3	100.0	83.3	90.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0
群馬	100.0	100.0	88.9	66.7	83.3	87.5	100.0	100.0	62.5	100.0	100.0	100.0	80.0	100.0
埼玉	100.0	100.0	93.3	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0	93.3	100.0	100.0	100.0	100.0	87.5
千葉	87.0	100.0	75.0	92.9	94.4	100.0	91.7	94.4	100.0	92.3	95.5	100.0	100.0	100.0
東京	97.4	100.0	97.6	97.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	92.5	97.4	100.0	94.1	100.0
神奈川	87.5	90.9	92.3	94.1	100.0	88.2	100.0	100.0	93.8	100.0	100.0	100.0	100.0	92.9
新潟	100.0	94.1	100.0	100.0	92.9	100.0	100.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
富山	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	66.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
石川	100.0	100.0	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
福井	80.0	85.7	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0	80.0	—
山梨	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	33.3	100.0	100.0	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
長野	100.0	100.0	85.7	100.0	100.0	100.0	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	100.0
岐阜	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
静岡	100.0	100.0	100.0	100.0	90.9	100.0	88.9	90.0	83.3	77.8	100.0	66.7	80.0	100.0
愛知	92.0	90.9	89.5	92.3	100.0	91.3	100.0	95.0	90.9	95.5	92.0	92.3	100.0	91.7
三重	100.0	100.0	100.0	75.0	100.0	100.0	83.3	66.7	100.0	100.0	100.0	66.7	100.0	100.0
滋賀	100.0	71.4	80.0	25.0	22.2	53.3	100.0	100.0	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0
京都	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
大阪	85.2	91.3	100.0	96.8	100.0	92.3	100.0	100.0	90.5	100.0	96.3	95.2	100.0	93.3
兵庫	100.0	94.4	91.3	100.0	92.9	100.0	96.0	100.0	100.0	89.5	100.0	100.0	100.0	100.0
奈良	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0
和歌山	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0
鳥取	100.0	100.0	—	100.0	66.7	66.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
島根	100.0	100.0	100.0	100.0	66.7	—	100.0	75.0	66.7	100.0	100.0	85.7	—	100.0
岡山	100.0	100.0	100.0	100.0	66.7	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
広島	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
山口	100.0	100.0	100.0	100.0	85.7	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0	100.0
徳島	100.0	83.3	100.0	100.0	66.7	100.0	80.0	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
香川	100.0	50.0	100.0	88.9	100.0	100.0	75.0	100.0	100.0	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0
愛媛	72.7	90.9	100.0	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
高知	66.7	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
福岡	95.5	100.0	78.6	88.2	94.4	71.4	80.0	78.3	91.7	88.9	91.7	95.2	100.0	87.5
佐賀	88.2	100.0	100.0	75.0	100.0	100.0	100.0	80.0	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
長崎	100.0	90.0	100.0	100.0	100.0	90.0	100.0	100.0	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
熊本	100.0	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	80.0	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0
大分	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
宮崎	72.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	66.7	80.0	100.0
鹿児島	100.0	100.0	100.0	75.0	100.0	68.8	100.0	88.9	100.0	100.0	75.0	100.0	60.0	100.0
沖縄	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
100%県 (%)	32 (68.1)	32 (68.1)	32 (68.1)	27 (57.4)	29 (61.7)	28 (59.6)	35 (74.5)	32 (68.1)	33 (70.2)	34 (72.3)	34 (72.3)	36 (76.6)	33 (70.2)	39 (83.0)

注1) 「学校基本調査報告書」より作成。

注2) 100%の進学率に網掛け(〇)をした。

表7. 養学校中学部卒業者の進学率の推移 (都道府県別)

卒業年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
全国計	96.6	96.9	96.2	96.8	98.4	98.3	97.6	98.5	97.3	98.6	97.7	97.6	98.2	98.6
国立	100.0							100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
公立	96.5							98.4	97.1	98.6	97.5	97.5	98.1	98.6
私立	100.0							100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
計内訳														
北海道	97.7	95.7	95.6	97.0	100.0	97.6	97.3	100.0	76.7	97.5	92.3	95.5	94.3	96.4
青森	100.0	96.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	92.3	100.0	100.0	91.7	100.0	100.0	100.0
岩手	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
宮城	100.0	94.1	92.3	81.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
秋田	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
山形	83.3	81.8	91.7	100.0	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	87.5	100.0	100.0
福島	86.7	92.9	100.0	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	85.7
茨城	76.5	95.2	93.3	100.0	100.0	100.0	92.9	100.0	100.0	90.0	100.0	100.0	86.7	100.0
栃木	100.0	95.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
群馬	100.0	92.9	95.2	100.0	100.0	93.8	100.0	85.7	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
埼玉	100.0	100.0	90.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.7
千葉	100.0	97.1	100.0	100.0	97.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.0	100.0	100.0	100.0
東京	98.6	100.0	98.6	97.3	100.0	100.0	100.0	98.6	98.1	100.0	100.0	100.0	98.0	100.0
神奈川	100.0	94.4	84.6	100.0	100.0	100.0	100.0	96.9	100.0	97.1	100.0	100.0	100.0	100.0
新潟	95.7	100.0	100.0	83.3	95.2	100.0	100.0	85.7	92.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
富山	100.0	100.0	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
石川	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
福井	100.0	100.0	50.0	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0
山梨	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
長野	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	90.0	100.0
岐阜	88.9	86.7	100.0	90.9	100.0	100.0	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	90.0	100.0	100.0
静岡	89.5	100.0	92.9	100.0	100.0	93.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.3	100.0	100.0
愛知	97.6	98.1	100.0	96.7	97.3	97.3	97.3	98.0	97.3	100.0	96.7	100.0	100.0	100.0
三重	100.0	100.0	—	90.9	100.0	100.0	92.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	85.7	100.0
滋賀	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
京都	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
大阪	93.9	98.3	96.4	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.5	100.0
兵庫	82.1	81.8	70.8	79.4	90.9	83.3	76.0	90.0	87.0	86.7	73.7	76.2	93.3	92.0
奈良	80.0	83.3	100.0	83.3	100.0	100.0	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
和歌山	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3
鳥取	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
島根	100.0	85.7	100.0	100.0	91.7	85.7	100.0	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
岡山	100.0	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	90.9	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	85.7
広島	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0
山口	100.0	91.7	87.5	100.0	85.7	100.0	80.0	100.0	90.0	100.0	80.0	88.9	100.0	100.0
徳島	100.0	100.0	100.0	100.0	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
香川	100.0	100.0	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
愛媛	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.1	87.5	100.0	90.9	100.0	88.9	100.0	100.0	100.0
高知	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
福岡	100.0	100.0	100.0	95.2	96.7	100.0	100.0	100.0	96.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
佐賀	100.0	100.0	88.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
長崎	96.6	100.0	100.0	100.0	93.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0
熊本	88.9	100.0	96.2	82.4	93.8	96.2	92.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
大分	100.0	100.0	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
宮崎	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
鹿児島	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	86.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
沖縄	100.0	100.0	90.9	99.1	100.0	94.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
100%県 (%)	33 (70.2)	29 (61.7)	28 (59.6)	31 (66.0)	36 (76.6)	36 (76.6)	36 (76.6)	38 (80.9)	38 (80.9)	40 (85.1)	41 (87.2)	39 (83.0)	40 (85.1)	40 (85.1)

注1) 「学校基本調査報告書」より作成。

注2) 100%の進学率に網掛け(〇)をした。

表8. 養護学校中学部卒業者の進学率の推移（都道府県別）

卒業年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
全国計	68.4	66.8	60.0	63.1	62.6	52.2	61.8	62.9	63.3	65.6	65.9	67.8	69.8	72.6
国立	87.6							94.9	92.2	94.8	96.1	96.7	96.4	96.5
公立	67.9							61.8	62.4	64.6	65.0	66.9	68.9	71.8
私立	24.5							36.0	44.1	61.2	50.0	66.0	71.9	60.0
計内訳														
北海道	36.4 ⁴	41.5	36.8	39.4	37.5	30.4	33.5	38.3	28.0 ²	28.6 ¹	26.8 ¹	34.1 ⁴	28.9 ¹	34.7 ¹
青森	40.9	35.1 ³	38.4	60.2	57.8	56.2	57.4	55.9	57.5	62.8	63.8	61.9	70.9	74.4
岩手	50.0	56.2	56.4	65.4	69.2	35.9	51.6	53.3	51.0	44.3	49.7	47.6	58.6	52.3
宮城	55.7	53.9	45.6	54.5	33.3 ⁵	30.2	47.2	41.7	36.8	36.6	41.6	66.7	65.6	74.8
秋田	34.8 ³	46.8	28.2 ³	36.2 ⁵	36.3	23.9 ⁴	43.2	41.4	28.7 ³	36.0	28.6 ²	38.0	50.5	42.9
山形	64.3	67.3	47.5	52.8	39.2	32.7	37.7	42.5	39.5	40.9	37.9	35.9	38.2	37.9 ²
福島	47.3	41.9	31.8 ⁴	28.7 ²	35.4	26.9	27.6 ⁴	31.0 ⁴	22.6 ¹	29.2 ²	30.3 ⁴	23.8 ¹	31.7 ²	40.6
茨城	78.8	68.8	60.0	60.2	58.3	32.7	48.0	44.9	48.7	59.4	58.0	57.4	63.5	75.8
栃木	78.7	85.7	53.7	51.7	54.0	48.0	40.2	49.5	48.8	53.0	53.6	41.6	55.6	47.3
群馬	29.9 ²	35.1 ³	27.6 ²	47.9	35.7	31.4	50.0	42.6	44.1	40.8	41.5	34.2 ⁵	39.2	43.4
埼玉	83.1	81.4	85.1 ⁵	68.4	70.4	68.1	77.4	76.2	81.1	84.3	81.8	81.4	84.9	90.7
千葉	71.2	79.5	73.3	86.1	84.4	84.1 ⁵	89.3 ⁴	91.1 ²	92.6 ³	93.0 ⁴	92.7 ³	94.2 ⁴	93.9 ⁴	94.4 ⁵
東京	89.9	86.4	84.4	88.1 ⁵	83.7	84.4 ⁴	89.1 ⁵	90.1 ⁴	91.6 ⁵	86.2	89.3	89.6	91.3	93.8
神奈川	90.8	92.9 ⁴	68.9	74.2	77.3	74.8	83.2	81.6	80.0	85.2	83.2	84.7	84.7	88.0
新潟	50.0	47.2	35.2 ⁵	34.0 ⁴	26.7 ²	26.7	27.5 ³	39.1	32.6 ⁵	32.7 ⁵	38.2	37.6	32.2 ³	38.8 ⁴
富山	87.5	94.7 ³	77.8	52.2	61.2	45.4	62.2	56.0	52.5	51.3	69.4	61.7	69.1	71.4
石川	94.7 ⁴	92.3	68.4	84.1	77.0	81.6	80.7	83.8	74.3	82.6	84.6	85.4	88.5	73.4
福井	51.1	52.1	56.5	51.3	59.6	36.8	58.3	53.3	54.9	57.0	61.3	64.5	74.6	71.2
山梨	75.9	90.3	85.0	67.3	73.2	71.1	71.4	79.2	71.4	80.4	64.6	82.1	91.8	89.6
長野	51.9	77.9	66.0	51.3	61.5	38.3	52.4	56.2	63.0	64.6	66.9	59.8	71.9	75.0
岐阜	46.3	29.0 ²	47.4	48.1	41.5	24.1 ⁵	50.9	52.9	54.1	50.4	50.7	58.4	69.4	78.0
静岡	63.1	59.0	39.7	43.4	45.3	30.4	39.1	42.3	45.8	43.8	44.4	47.0	43.6	53.1
愛知	60.8	52.5	60.1	59.8	62.8	58.7	69.0	65.9	63.4	64.9	66.5	69.6	72.2	77.2
三重	60.4	60.0	44.0	49.4	55.8	47.7	67.7	72.8	58.5	70.7	70.6	71.4	68.5	73.5
滋賀	62.7	36.5 ⁵	52.2	59.5	77.9	70.3	88.6	83.8	69.1	81.9	84.9	89.5	91.7	87.7
京都	98.7 ¹	95.9 ²	93.2 ¹	91.5 ²	87.0 ⁵	89.2 ²	94.2 ²	97.0 ¹	95.1 ²	95.4 ²	95.8 ¹	96.1 ²	97.4 ¹	99.4 ²
大阪	90.0	91.4	86.0 ⁴	92.1 ¹	91.9 ²	90.9 ¹	89.0	89.1 ⁵	91.8 ⁴	94.5 ³	91.4 ⁵	92.4	92.4	94.4 ⁵
兵庫	71.4	70.0	60.7	63.0	64.0	52.1	54.4	61.6	67.4	61.1	69.3	69.7	72.5	76.6
奈良	97.1 ³	91.1	93.2 ¹	90.4 ³	84.6	70.8	90.9 ³	77.9	89.2	91.7 ⁵	92.2 ⁴	94.4 ³	92.6 ⁵	96.1 ⁴
和歌山	80.5	92.5 ⁵	84.3	87.2	88.9 ³	50.6	86.6	62.8	81.1	78.0	80.0	83.8	87.1	92.9
鳥取	38.6	42.1	60.0	57.8	56.6	35.4	41.7	29.5 ²	61.9	64.0	62.3	76.2	82.6	75.9
島根	26.7 ¹	15.6 ¹	16.4 ¹	18.0 ¹	20.0 ¹	13.3 ¹	27.0 ²	38.5	37.9	36.6	36.1	50.0	46.3	60.4
岡山	52.4	47.8	43.7	52.8	55.0	53.8	42.4	36.0	39.4	43.4	52.9	57.7	47.1	58.9
広島	92.4	97.1 ¹	90.0 ³	82.5	93.4 ¹	86.8 ³	95.7 ¹	90.3 ³	97.9 ¹	96.8 ¹	95.1 ²	99.4 ¹	95.7 ³	99.0 ³
山口	37.7 ⁵	42.3	43.8	37.6	33.3 ⁵	23.3 ³	26.5 ¹	32.8 ⁵	32.1 ⁴	29.3 ³	32.4	50.9	50.5	68.1
徳島	97.6 ²	85.7	69.8	74.6	69.5	48.0	73.3	82.4	76.9	82.3	89.4	85.3	95.8 ²	100.0 ¹
香川	76.8	80.0	60.3	69.0	72.5	66.0	77.3	85.7	82.5	72.0	77.4	80.7	79.6	81.1
愛媛	82.2	86.3	62.1	66.4	58.7	44.3	44.8	59.3	47.8	70.3	65.9	60.4	66.1	58.3
高知	91.8	83.8	63.2	67.2	71.9	74.0	67.6	67.1	83.1	77.9	81.6	93.9 ⁵	76.2	76.7
福岡	58.0	63.9	54.7	56.9	63.4	39.9	54.2	59.6	58.2	65.3	62.5	59.4	67.2	73.5
佐賀	85.0	75.0	74.1	88.5 ⁴	88.7 ⁴	41.8	59.7	50.0	56.7	69.7	73.9	81.4	67.7	64.4
長崎	50.0	42.3	39.3	43.9	27.2 ³	22.0 ²	29.7 ⁵	30.9 ³	32.9	30.4 ⁴	34.2	33.0 ³	33.9 ⁴	38.1 ³
熊本	40.2	49.6	44.8	32.3 ³	32.6 ⁴	31.9	39.1	39.4	37.3	34.1	32.3	30.8	45.9	48.6
大分	52.2	56.8	49.5	50.0	48.4	36.8	42.0	26.1 ¹	39.6	46.4	29.2 ³	37.5	34.2 ⁵	39.4 ⁵
宮崎	76.7	48.8	48.4	51.0	36.3	36.7	48.4	49.5	52.5	50.7	46.5	41.9	57.4	54.5
鹿児島	60.5	45.7	52.8	51.6	56.1	34.5	55.5	52.7	59.7	64.3	69.6	61.7	65.7	73.8
沖縄	93.4 ⁵	91.3	83.5	83.5	73.4	79.8	75.0	83.6	80.2	84.4	76.3	83.1	87.4	83.3
80%以上	15(31.9)	17(36.2)	9(19.1)	10(21.3)	8(17.0)	6(12.8)	9(19.1)	11(23.4)	12(25.5)	13(27.7)	13(27.7)	17(36.2)	15(31.9)	14(29.8)
40%未満	6(12.8)	5(10.6)	9(19.1)	7(14.9)	12(25.5)	22(46.8)	8(17.0)	10(21.3)	12(25.5)	9(19.1)	10(21.3)	9(19.1)	7(14.9)	5(10.6)

注1) 「学校基本調査報告書」より作成。

2) 進学率が80%以上に網かけ(○)、40%未満にアンダーライン(ー)を付した。

3) 進学率の後ろに付してある○内の数字は全国の上位順位、□内の数字は下位順位であり、それぞれ5位まで示した。

表9. 中学校75条学級卒業者の進学率

年3月	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
全国計	27.0	30.3	37.7	38.1	39.3	42.5	45.9	47.3	49.5	51.3	54.1	55.0	56.6	57.6
国立	34.4	58.4	57.8	59.4	62.3	66.7	76.4	78.9	64.8	75.4	64.4	72.7	59.3	70.7
公立	27.0	29.9	36.2	38.0	39.1	42.0	45.5	46.6	49.3	50.8	53.8	55.0	56.3	57.5
私立	—	87.9	99.3	—	96.3	98.8	98.4	98.1	58.4	77.8	77.0	16.7	75.8	56.1
計内訳														
北海道	17.9	16.0	20.7	25.3	31.3	35.3	50.8	58.8	48.9	54.5	53.4	57.7	59.0	65.7
青森	13.7	19.1	17.3	17.8 ^④	36.2	35.7	36.7	38.5	46.8	44.5	44.5	44.8	55.8	55.3
岩手	14.2	17.0	17.1	33.3	30.0	28.0	47.4	33.8	38.0	36.3	35.3	46.6	35.5	43.7
宮城	16.7	17.7	17.2	15.9 ^②	15.1	14.3 ^③	42.7	17.0 ^②	22.8	22.2 ^④	53.4	37.2	36.8	36.6
秋田	36.2	33.0	58.2	56.6	67.6 ^③	50.6	58.1	77.7 ^③	75.9 ^②	56.4	56.1	54.6	54.7	62.3
山形	16.2	19.1	22.7	19.8	60.0	48.4	39.0	34.8	63.5	48.5	54.7	55.1	60.0	61.1
福島	25.9	19.7	28.3	35.9	32.8	29.1	39.4	29.0	32.5	28.7	23.3 ^⑤	23.5 ^②	24.3 ^④	57.3
茨城	16.5	15.0	20.7	20.6	25.4	18.6 ^⑤	19.0 ^⑤	21.6 ^⑤	20.7 ^③	20.5 ^③	21.8 ^④	28.7	28.1 ^⑤	28.7 ^④
栃木	11.2 ^④	8.9 ^③	14.7 ^③	26.9	11.6 ^②	12.3 ^②	19.0 ^⑤	21.0 ^③	23.3 ^④	23.0 ^⑤	19.3 ^③	23.7 ^③	23.3 ^③	27.2 ^②
群馬	15.7	18.5	16.3 ^④	27.3	13.9 ^⑤	58.5	28.4	24.3	29.6	38.7	36.5	47.3	47.2	50.0
埼玉	20.2	19.4	32.2	29.5	32.3	31.8	35.2	40.8	40.9	60.0	55.1	55.3	60.1	53.1
千葉	11.2 ^④	14.7	20.4	21.8	33.4	24.6	31.0	30.6	38.6	38.9	37.7	50.0	52.8	44.8
東京	40.9	48.5	53.8	47.9	52.3	56.6	60.7	67.5 ^⑤	68.3	71.5 ^④	75.5 ^⑤	71.7	78.0 ^⑤	74.9
神奈川	18.4	31.8	34.6	42.6	47.8	55.8	65.9	64.7	69.2 ^⑤	74.3 ^②	79.3 ^④	81.6 ^②	79.1 ^④	78.3 ^③
新潟	42.9	18.5	28.7	19.3	19.6	18.9	21.8	22.4	15.3 ^②	19.4 ^②	14.8 ^①	23.8 ^④	11.2 ^①	20.5 ^①
富山	39.5	57.4	71.9 ^③	61.7 ^③	59.7	64.9	58.3	82.4 ^④	62.4	73.8 ^③	83.3 ^③	69.5	71.2	65.1
石川	46.2	61.5 ^③	71.2 ^④	51.0	47.8	38.6	51.4	44.4	64.0	67.4	60.4	65.1	85.7 ^②	75.0
福井	18.8	18.8	16.5 ^⑤	34.8	24.0	53.8	39.7	37.5	34.9	36.5	35.2	46.9	53.4	56.6
山梨	51.5 ^③	65.4 ^④	77.0 ^①	56.1	64.7 ^⑤	67.3 ^④	50.5	56.5	65.6	59.8	72.8	61.1	61.2	70.7
長野	38.3	48.3	54.7	59.0	58.5	57.4	58.0	57.1	69.0	61.3	63.9	57.8	54.1	65.8
岐阜	15.5	14.6	18.2	18.1 ^⑤	17.1	29.4	38.4	33.9	33.3	48.5	49.7	42.4	45.6	57.6
静岡	7.7 ^①	8.2 ^②	7.8 ^①	16.2 ^③	13.0 ^③	11.8 ^①	16.2 ^①	15.2 ^①	15.2 ^①	16.1 ^①	17.3 ^②	18.9 ^①	18.3 ^②	28.9 ^⑤
愛知	12.7	16.6	17.7	23.2	21.8	26.1	26.7	32.3	29.2	33.3	36.1	39.6	43.8	43.8
三重	20.2	23.1	50.0	41.7	36.6	40.8	46.2	42.6	39.0	37.7	30.7	30.5	33.1	32.6
滋賀	16.2	18.9	18.9	28.6	31.5	28.1	29.0	26.3	35.0	33.3	25.3	32.4	37.7	28.4 ^③
京都	59.1 ^②	59.5 ^⑤	68.1 ^⑤	69.1 ^①	70.5 ^②	71.9 ^②	77.2 ^①	79.0 ^②	81.5 ^①	82.8 ^①	85.4 ^②	87.3 ^①	87.2 ^①	86.0 ^①
大阪	42.8	49.7	50.2	51.6	50.8	60.6	63.6	63.9	64.7	68.6 ^⑤	70.8	76.8 ^④	76.5	73.7
奈良	30.6	38.3	54.5	35.2	43.2	35.7	55.1	52.5	47.9	52.0	51.3	53.5	63.8	61.4
兵庫	47.9	45.9	62.1	51.2	52.2	50.0	76.8 ^②	55.0	64.8	68.3	73.4	80.4 ^③	70.1	85.2 ^②
和歌山	45.2	52.2	52.1	50.0	44.2	67.2 ^⑤	55.3	62.7	57.2	59.0	55.8	53.9	61.7	65.3
鳥取	42.3	55.4	36.4	48.0	39.1	50.0	76.4 ^③	38.3	59.6	62.3	55.4	56.5	81.2 ^③	55.2
島根	7.9 ^①	5.4 ^①	28.0	7.0 ^①	8.7 ^①	14.6 ^④	16.4 ^②	22.2	25.6 ^⑤	25.9	23.8	34.0	42.0	42.3
岡山	65.8 ^④	54.3	59.5	59.8 ^⑤	61.0	59.1	55.8	59.1	66.5	57.5	57.1	53.8	58.9	54.6
広島	50.5 ^④	63.2 ^②	72.0 ^②	68.8 ^②	70.6 ^①	73.5 ^①	67.2 ^⑤	70.1 ^④	65.1	68.2	74.0	73.5	75.6	67.5
山口	28.2	27.9	35.7	43.7	62.2	45.6	44.6	53.6	55.0	57.0	54.9	63.4	61.3	67.0
徳島	35.9	34.7	38.1	35.1	42.7	44.1	74.8 ^④	49.1	70.6 ^③	60.0	67.7	74.5 ^⑤	64.6	56.3
香川	45.2	41.4	41.7	43.5	47.1	44.3	39.2	50.5	49.4	51.2	51.0	57.1	61.4	59.3
愛媛	24.4	24.3	56.3	37.8	35.5	36.1	29.0	48.9	35.7	30.4	64.5	39.9	37.7	35.9
高知	12.9	60.0 ^④	36.6	24.6	37.3	45.1	51.9	51.4	65.9	54.8	86.9 ^①	70.8	71.9	73.5
福岡	29.8	32.1	40.0	44.4	35.6	45.2	46.1	50.2	48.1	60.9	62.1	66.8	66.8	65.9
佐賀	27.9	25.5	54.0	24.5	29.7	27.0	37.4	41.8	43.0	34.8	33.8	32.1	40.3	38.7
長崎	8.6 ^③	10.5 ^⑤	25.3	42.3	13.0 ^③	20.4	18.3 ^④	25.0	30.5	24.7	58.6	26.3 ^⑤	30.0	68.4
熊本	12.8	10.3 ^④	13.3 ^②	21.4	16.9	20.8	17.4 ^③	21.0 ^③	25.8	31.4	44.1	48.3	32.8	39.0
大分	50.2 ^⑤	58.0	54.3	60.6 ^④	65.4 ^④	68.6 ^③	63.6	65.6	70.6 ^③	64.6	56.3	58.2	64.8	53.5
宮崎	11.4	13.5	18.3	23.8	25.9	25.6	33.0	31.6	36.5	39.6	40.6	34.6	34.7	41.8
鹿児島	20.5	26.2	33.0	37.8	30.2	34.4	32.5	33.3	42.3	39.2	46.6	47.1	49.1	52.6
沖縄	13.1	16.7	18.7	52.7	27.7	55.3	38.1	57.4	54.2	62.2	74.5	62.3	60.8	59.7
70%以上	—	—	4(8.5)	—	2(4.3)	2(4.3)	4(8.5)	4(8.5)	4(8.5)	4(8.5)	10(21.3)	8(17.0)	10(21.3)	8(17.0)
40%未満	34(72.3)	32(68.1)	28(59.6)	26(55.3)	28(59.6)	25(53.2)	23(48.9)	21(44.7)	19(40.4)	18(38.3)	14(29.8)	14(29.8)	13(27.7)	10(21.3)

注1) 「学校基本調査報告書」より作成。

2) 進学率が70%以上に網かけ(○), 40%未満にアンダーライン(—)を付した。

3) 進学率の後ろに付してある○内の数字は全国の上位順位, □内の数字は下位順位であり, それぞれ5位まで示した。

表10. 中学校75条学級卒業者の機関別の進学・入学状況（都道府県別）

卒業年	1980年3月				1985年3月				1990年3月			
	進学率	高校等	高等部	教育訓練機関	進学率	高校等	高等部	教育訓練機関	進学率	高校等	高等部	教育訓練機関
全国計	37.7	3,471 (26.2)	1,528 (11.5)	1,869 (14.1)	47.3	2,388 (21.4)	2,884 (25.9)	1,363 (12.2)	56.6	1,751 (16.9)	4,116 (39.7)	910 (8.8)
国立	57.8	3 (4.7)	34 (53.1)	11 (17.2)	78.9	—	45 (78.9)	3 (5.3)	59.3	1 (1.9)	31 (57.4)	5 (9.3)
公立	36.2	3,168 (24.6)	1,494 (11.6)	1,857 (14.4)	46.6	2,282 (20.8)	2,839 (25.8)	1,360 (12.4)	56.3	1,665 (16.3)	4,076 (40.0)	878 (8.6)
私立	99.3	300 (99.3)	—	1 (0.3)	98.1	106 (98.1)	—	—	75.8	85 (68.5)	9 (7.3)	27 (21.8)
計内訳												
北海道	20.7	55 (8.7)	76 (12.0)	112 (17.7)	58.8	76 (15.9)	205 (42.9)	39 (8.2)	59.0	79 (14.6)	241 (44.5)	39 (7.2)
青森	17.3	20 (11.9)	9 (5.4)	31 (18.5)	38.5	25 (18.5)	27 (20.0)	21 (15.6)	55.8	13 (13.7)	40 (42.1)	13 (13.7)
岩手	17.1	21 (10.2)	14 (6.8)	60 (29.3)	33.8	23 (17.3)	22 (16.5)	28 (21.1)	35.5	14 (11.6)	29 (24.0)	18 (14.9)
宮城	17.2	29 (11.3)	15 (5.9)	57 (22.3)	17.0②	15 (8.2)	16 (8.8)	35 (19.2)	36.8	6 (3.4)	58 (33.3)	26 (14.9)
秋田	58.2	161 (57.5)	2 (0.7)	59 (21.1)	77.7③	190 (75.7)	5 (2.0)	28 (11.2)	54.7	18 (28.1)	17 (26.6)	10 (15.6)
山形	22.7	18 (18.6)	4 (4.1)	21 (21.6)	34.8	11 (12.0)	21 (22.8)	12 (13.0)	60.0	8 (12.3)	31 (47.7)	2 (3.1)
福島	28.3	127 (26.1)	11 (2.3)	97 (19.9)	29.0	71 (25.1)	11 (3.9)	31 (11.0)	24.3①	21 (11.9)	22 (12.4)	20 (11.3)
茨城	20.7	67 (16.3)	18 (4.4)	68 (16.5)	21.6⑤	37 (11.4)	33 (10.2)	43 (13.3)	28.1⑤	16 (6.0)	59 (22.1)	20 (7.5)
栃木	14.7③	19 (7.2)	20 (7.5)	77 (29.1)	21.0③	32 (13.2)	19 (7.8)	40 (16.5)	23.5③	21 (8.6)	36 (14.8)	16 (6.6)
群馬	16.3④	28 (14.3)	4 (2.0)	40 (20.4)	24.3	26 (14.4)	18 (9.9)	20 (11.0)	47.2	27 (15.3)	56 (31.8)	12 (6.8)
埼玉	32.2	84 (17.5)	70 (14.6)	73 (15.2)	40.8	37 (8.6)	138 (32.2)	47 (11.0)	60.1	50 (9.5)	268 (60.7)	29 (5.5)
千葉	20.4	50 (10.3)	49 (10.1)	44 (9.1)	30.6	45 (10.4)	87 (20.2)	48 (11.1)	52.8	75 (18.0)	145 (34.8)	34 (8.2)
東京	53.8	143 (21.3)	218 (32.5)	29 (4.3)	67.5⑥	18 (3.0)	387 (64.3)	27 (4.5)	78.0⑥	61 (8.9)	471 (69.1)	52 (7.6)
神奈川	34.6	25 (5.9)	121 (28.7)	38 (9.0)	64.7	18 (3.9)	282 (60.8)	21 (4.5)	79.1⑥	34 (6.2)	401 (72.9)	31 (5.6)
新潟	28.7	67 (26.0)	7 (2.7)	41 (15.9)	22.4	30 (17.2)	9 (5.1)	22 (12.6)	11.2①	15 (8.4)	5 (2.8)	15 (8.4)
富山	71.9③	52 (58.4)	12 (13.5)	7 (7.9)	82.4④	30 (44.1)	26 (38.2)	4 (5.9)	71.2	10 (15.2)	37 (56.1)	—
石川	71.2④	75 (63.6)	9 (7.6)	11 (9.3)	44.4	3 (6.7)	17 (37.8)	5 (11.1)	85.7②	5 (11.9)	31 (73.8)	—
福井	16.5⑤	10 (12.7)	3 (3.8)	16 (20.3)	37.5	13 (18.1)	14 (19.4)	17 (23.6)	53.4	14 (19.2)	25 (34.2)	2 (2.7)
山梨	77.0①	130 (73.0)	7 (3.9)	15 (8.4)	56.5	41 (48.2)	7 (8.2)	6 (7.1)	61.2	35 (45.9)	13 (15.3)	2 (2.4)
長野	54.7	175 (51.2)	12 (3.5)	49 (14.3)	57.1	166 (47.2)	35 (9.9)	32 (9.1)	54.1	134 (36.8)	63 (17.3)	24 (6.6)
岐阜	18.2	20 (9.6)	18 (8.6)	37 (17.7)	33.9	42 (17.1)	41 (16.7)	31 (12.7)	45.6	65 (22.6)	66 (23.0)	36 (12.5)
静岡	7.8①	20 (5.2)	10 (2.6)	79 (20.4)	15.2①	28 (7.7)	27 (7.5)	120 (33.1)	18.5②	15 (5.0)	41 (13.6)	42 (13.9)
愛知	17.7	28 (5.6)	61 (12.1)	79 (15.7)	32.3	45 (8.0)	137 (24.3)	99 (17.6)	43.8	36 (6.9)	193 (34.2)	87 (16.6)
三重	50.0	95 (45.2)	10 (4.8)	20 (9.5)	42.6	35 (25.7)	23 (16.9)	8 (5.9)	33.1	17 (13.1)	26 (20.0)	10 (7.7)
滋賀	18.9	11 (9.0)	12 (9.8)	30 (24.6)	26.3	8 (6.0)	27 (20.3)	27 (20.3)	37.7	15 (10.9)	37 (28.0)	27 (19.6)
京都	68.1⑤	63 (23.3)	121 (44.8)	26 (9.6)	79.0②	49 (18.1)	165 (60.9)	12 (4.4)	87.2①	90 (30.4)	168 (56.8)	20 (6.8)
大阪	50.2	144 (18.4)	249 (31.8)	102 (13.0)	63.9	112 (14.1)	397 (49.9)	79 (9.9)	76.5	147 (18.2)	471 (58.3)	60 (7.4)
兵庫	54.5	297 (46.3)	53 (8.3)	43 (6.7)	52.5	104 (21.6)	149 (30.9)	39 (8.1)	63.8	37 (8.3)	248 (85.5)	37 (8.3)
奈良	62.1	48 (31.4)	47 (30.7)	18 (11.8)	55.0	24 (15.9)	59 (39.1)	21 (13.9)	70.1	15 (10.2)	88 (59.9)	19 (12.9)
和歌山	52.1	123 (43.6)	24 (8.5)	37 (13.1)	62.7	124 (47.7)	39 (15.0)	34 (13.1)	61.7	76 (38.8)	45 (23.0)	25 (12.8)
鳥取	36.4	23 (34.8)	1 (1.5)	11 (16.7)	38.3	18 (30.0)	5 (8.3)	10 (16.7)	81.2③	36 (52.2)	20 (29.0)	2 (2.9)
島根	28.0	46 (27.4)	1 (0.6)	29 (17.3)	22.2	5 (6.2)	13 (16.0)	23 (28.4)	42.0	3 (3.7)	31 (38.3)	5 (6.2)
岡山	59.5	157 (53.4)	18 (6.1)	48 (16.3)	59.1	164 (49.7)	31 (9.4)	45 (13.6)	58.9	48 (28.6)	51 (30.4)	23 (13.7)
広島	72.0②	207 (54.8)	65 (17.2)	19 (5.0)	70.1④	158 (45.0)	88 (25.1)	35 (10.0)	75.6	168 (47.1)	102 (28.6)	29 (8.1)
山口	35.7	20 (17.4)	21 (18.3)	11 (9.6)	53.6	28 (25.0)	32 (28.6)	10 (8.9)	61.3	18 (17.0)	47 (44.3)	4 (3.8)
徳島	38.1	30 (30.9)	7 (7.2)	12 (12.4)	49.1	16 (29.1)	11 (20.0)	9 (16.4)	64.6	48 (33.3)	15 (31.3)	4 (8.3)
香川	41.7	49 (37.1)	6 (4.5)	24 (18.2)	50.5	32 (31.1)	20 (19.4)	14 (13.6)	61.4	21 (25.3)	30 (36.1)	4 (4.8)
愛媛	56.3	164 (54.3)	6 (2.0)	14 (4.6)	48.9	78 (41.1)	15 (7.9)	10 (5.3)	37.7	42 (25.9)	19 (11.7)	12 (7.4)
高知	36.6	8 (9.8)	22 (26.8)	4 (4.9)	51.4	5 (6.9)	32 (44.4)	3 (4.2)	71.9	11 (17.2)	35 (54.7)	2 (3.1)
福岡	40.0	167 (33.1)	35 (6.9)	85 (16.8)	50.2	147 (33.6)	73 (16.7)	71 (16.2)	66.8	72 (23.2)	135 (43.5)	27 (8.7)
佐賀	54.0	88 (50.6)	6 (3.4)	20 (11.5)	41.8	13 (14.3)	25 (27.5)	5 (5.5)	40.3	3 (4.2)	26 (36.1)	2 (2.8)
長崎	25.3	42 (23.6)	3 (1.7)	27 (15.2)	25.0	9 (8.0)	19 (17.0)	17 (15.2)	30.0	8 (10.0)	16 (20.0)	12 (15.0)
熊本	13.3②	23 (12.7)	1 (0.6)	27 (14.9)	21.0③	21 (13.4)	12 (7.6)	31 (19.7)	32.8	7 (6.0)	31 (26.7)	16 (13.8)
熊本	54.3	123 (53.0)	3 (1.3)	47 (20.3)	65.6	113 (63.2)	7 (3.8)	19 (10.4)	64.8	65 (60.2)	5 (4.6)	5 (4.6)
宮崎	18.3	24 (14.2)	7 (4.1)	33 (19.5)	31.6	12 (12.6)	18 (18.9)	22 (23.2)	34.7	6 (8.0)	20 (26.7)	10 (13.3)
鹿児島	33.0	79 (27.7)	15 (5.3)	30 (10.5)	33.3	48 (26.2)	13 (7.1)	32 (17.5)	49.1	37 (22.7)	43 (26.4)	25 (15.3)
沖縄	18.7	16 (7.3)	25 (11.4)	12 (5.5)	57.4	43 (35.2)	27 (22.1)	11 (9.0)	60.8	17 (13.6)	59 (47.2)	—
70%以上 40%未満	4 (8.5)	28 (59.6)			4 (8.5)	21 (44.7)			10 (21.3)	13 (27.7)		

注1) 「学校基本調査報告書」より作成。

2) 進学率は、表9の再掲である。

3) 「高校等」または「高等部」の進学率が50%以上に欄かけ(○)を付した。

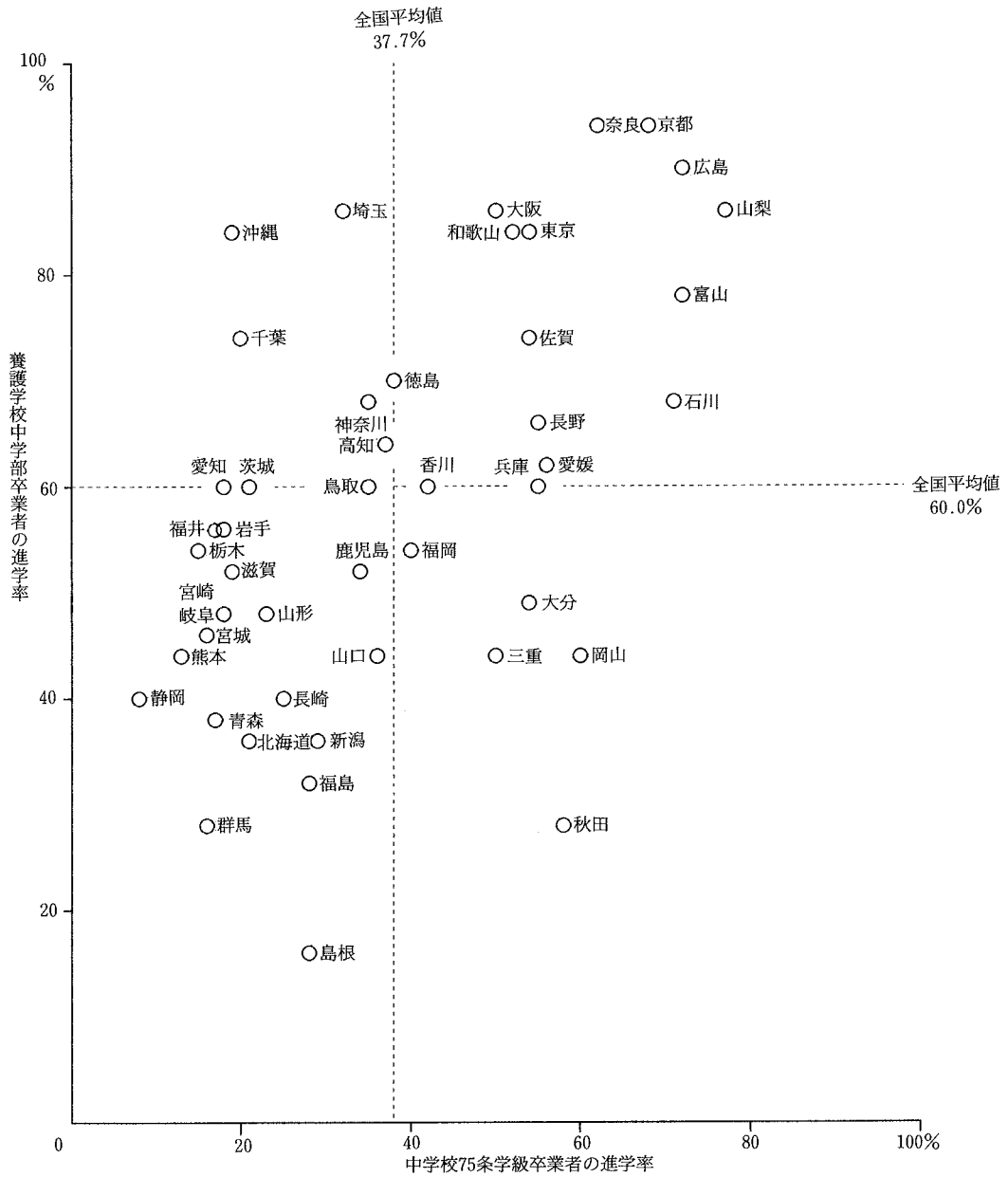


図1. 養護学校中学部卒業者及び中学校75条学級卒業者の進学率のクロス(1980年)

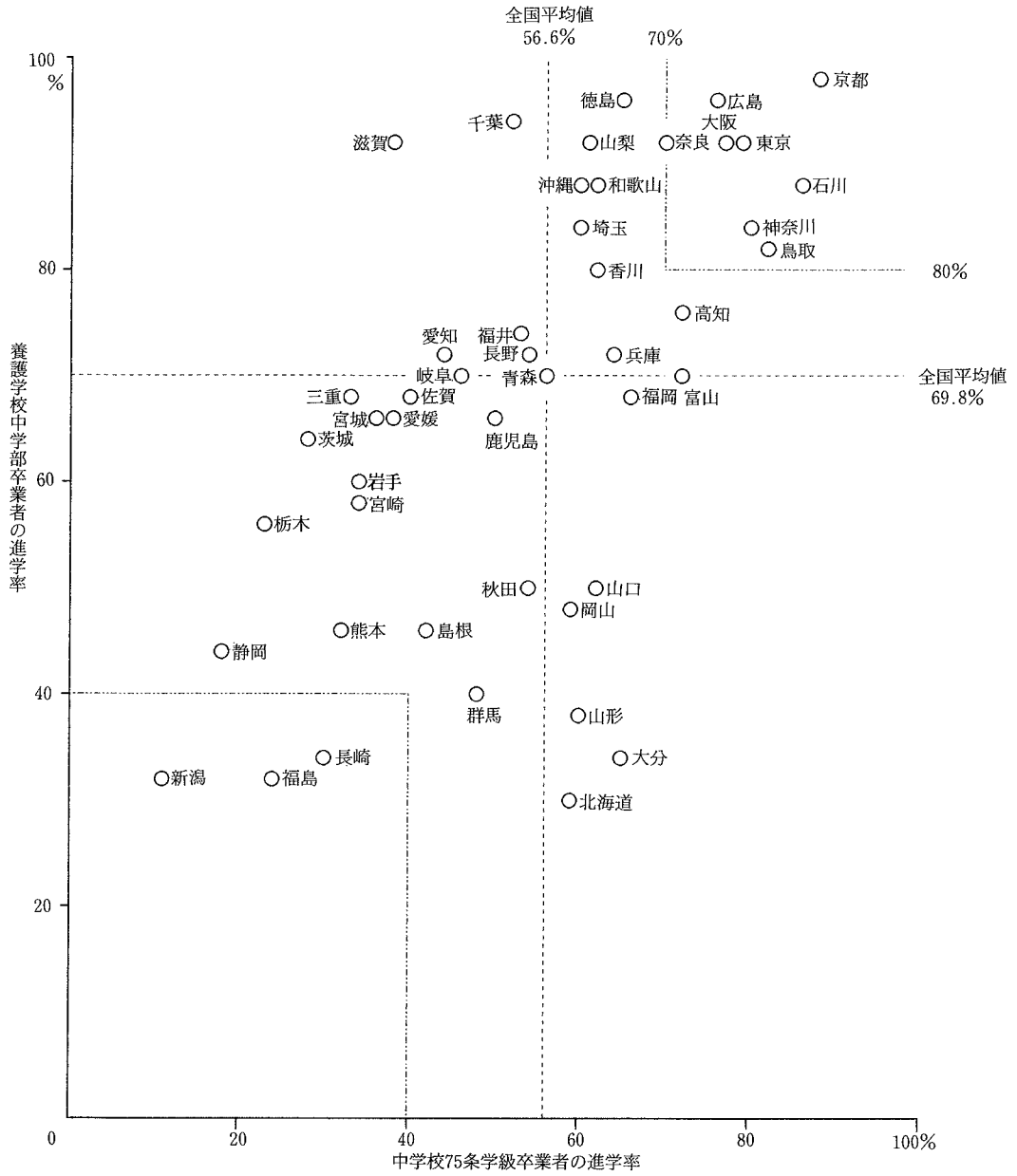


図2. 養護学校中学部卒業者及び中学校75条学級卒業者の進学率のクロス(1990年)

